

高等学校における学習評価の手引き
～「指導と評価の一体化」の推進に向けて～

実践編

令和3年10月

山口県教育委員会

目次

■ 第1章 観点別学習状況の評価の進め方について

1 単元の評価規準の作成	1
2 「指導と評価の計画」の作成	2
3 評価の総括の流れ（例）	3

■ 第2章 各教科等における単元ごとの学習評価について

1 各学科に共通する教科（必履修科目）	
（1）国語	9
（2）地理歴史	15
（3）公民	20
（4）数学	25
（5）理科	33
（6）保健体育	40
（7）芸術	46
（8）外国語	52
（9）家庭	57
（10）情報	64
2 総合的な探究の時間	69
3 特別活動	73

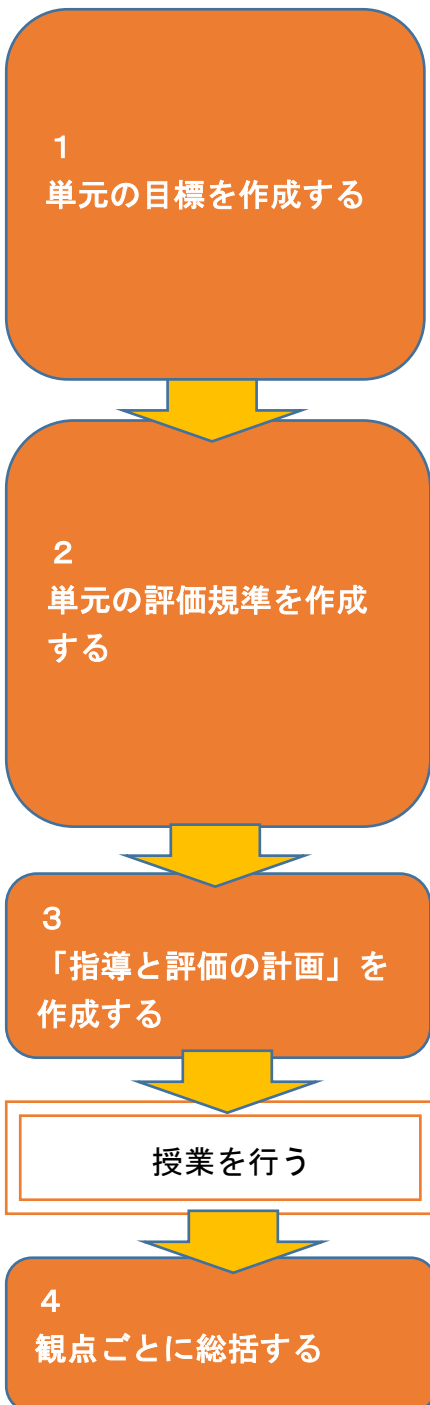
学習評価に関するQ&A	78
-------------	----

第 1 章 観点別学習状況の評価の進め方について

1 単元の評価規準の作成

各教科・科目等の単元における観点別学習状況の評価を実施するに当たり、まずは年間の指導と評価の計画を確認することが重要です。その上で、学習指導要領の目標や内容、「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方等を踏まえ、以下のように進めていくことが考えられます。なお、複数の単元にわたって評価を行う場合など、以下の方法によらない事例もあることに留意する必要があります。

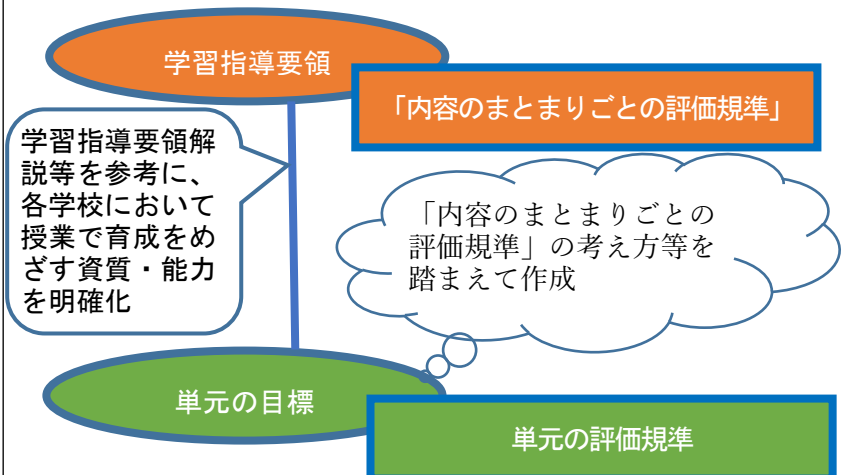
評価の進め方



留意点

- 学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成する。
- 生徒の実態、前単元までの学習状況等を踏まえて作成する。

単元の目標及び評価規準の関係性について（イメージ図）



- ※ 外国語科においては、この限りではない。
- ※ 「内容のまとまりごとの評価規準」については、「理論編」を参照。
- ※ 各教科の「単元の評価規準」については、第2章を参照。

- 1、2を踏まえ、評価場面や評価方法等を計画する。
- どのような評価資料（生徒の反応やノート、ワークシート、作品等）を基に、「おおむね満足できる」状況（B）と評価するかを考えたり、「努力を要する」状況（C）への手立て等を考えたりする。

- 3に沿って観点別学習状況の評価を行い、生徒の学習改善や教員の指導改善につなげる。

- 集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価（A、B、C）を行う。

2 「指導と評価の計画」の作成

学習評価については、日々の授業の中で生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことが重要であり、観点別の学習状況の評価は、毎回の授業ではなく、原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階を精選して行います。そのため、観点別の学習状況の評価の時期や場面について、あらかじめ計画を立てることが必要です。

〈参考例：「指導と評価の計画（全10単位時間想定）」（地理総合）〉

○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」

知…[知識・技能]、思…[思考・判断・表現]、態…[主体的に学習に取り組む態度]

時	主たる学習活動	知	思	態	評価規準等
1	<ul style="list-style-type: none"> 世界銀行などのウェブサイトへアクセスし、そこで見られる様々な統計地図から読み取ったことを、ワークシート1にまとめる。 G I Sで調べることができる「世界や地域の課題や特色」を予想して、ワークシート1にまとめる。 	●		●	<ul style="list-style-type: none"> ウェブ地図などで見られる様々な統計地図から、情報を適切に読み取っている。(知) 地図やG I Sを使ってどのようなことを調べることができるかを予想している。(態)
2	<ul style="list-style-type: none"> 地球儀やデジタル地球儀などで、ある地点からの方位や距離、位置や分布を調べた結果を踏まえて、様々な地図の特長や短所、用途をワークシート2にまとめる。 等時帯図などの読図を基に、時差の仕組みについてワークシート2にまとめる。 	●			<ul style="list-style-type: none"> 地球儀やデジタル地図、紙地図などの形態の異なる様々な地図について、表現上の特長や短所、用途を理解している。(知) 等時帯図の使い方や、時差のしくみについて理解している。(知)
3	<ul style="list-style-type: none"> 地理院地図などのウェブ地図を用い、海洋国家である日本の位置や広がり、海洋の果たす役割について調べたことをワークシート3にまとめる。 	○			○海洋国家である日本の位置や広がり、海洋の果たす役割について理解している。(知)
4	<ul style="list-style-type: none"> 道路図、鉄道路線図、観光案内図などの身の回りがある地図を収集し、それらに見られる地図表現の工夫について考察したことをワークシート4にまとめる。 	○	●		<ul style="list-style-type: none"> 位置や範囲、縮尺などに着目して、身の回りの地図に見られる様々な表現上の工夫について考察したことを文章にまとめている。(思) 様々な統計地図の基本的な特性を考え、統計の種類や主題図の用途などに応じて、地図の表現方法を適切に選択して作図している。(知)
5		○			○地理院地図を使って、学校周辺、通学路の環境などに関する情報を適切に収集している。(知)
6 7	<ul style="list-style-type: none"> ける日本の輸出額の国別割合を示す流線図を作成し、その変化の要因についてインターネットを使って調べ、考察した結果をワークシート6にまとめる。 	●	○		<ul style="list-style-type: none"> 国家間の結び付きの現状について理解している。(知) 作成した流線図などを基に、位置や範囲などに着目して、貿易相手国の変化とその要因について多面的・多角的に考察したことを文章にまとめている。(思)
8 9	<ul style="list-style-type: none"> 国内の貨物輸送に関する地図や統計資料などを収集し、それらを基に様々な輸送手段が国内をどのように結び付けているのかを読み取り、ワークシート7にまとめる。 貨物輸送からみた国内の結び付きや様々な輸送手段の特色について、考察した結果をワークシート7にまとめる。 	●			<ul style="list-style-type: none"> 自ら収集した地図や統計資料を基に、様々な輸送手段が国内をどのように結び付けているのかを読み取り、文章にまとめている。(知) 貨物輸送からみた国内の結び付きやそれぞれの輸送手段の特色などについて理解している。(知)
10	<ul style="list-style-type: none"> 単元の学習を振り返り、地図やG I Sの目的や用途、活用の仕方について考察したことをワークシート8にまとめる。 単元の学習を振り返り、地図やG I Sの社会的な役割や有用性についての自分の考えをワークシート8にまとめる。 今後の学習などで、地図やG I Sを使ってどのようなことを調べたいか、どのように活用していきたいかについてワークシート8にまとめる。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 地図やG I Sの目的や用途、活用の仕方などを、多面的・多角的に考察している。(思) 地図やG I Sの社会的役割や有用性について理解している。(知) 地図やG I Sを使って調べたいことや活用上の疑問点などを整理し、今後の学習で地図やG I Sを意欲的に活用しようとしている。(態)

★ ポイント

学習改善につなげる評価（記録に残さない）を行う場面と評定に用いる評価（記録に残す）を行う場面を適切に配置する。

3 評価の総括の流れ（例）

各単元における観点別学習状況の評価を行う場合、「A、B、Cの数を基に総括する方法」や「A、B、Cを数値に置き換えて総括する方法」などが考えられます。この二つの方法については、例えば、次に示すような流れが考えられます。各学校の教育目標や生徒の実態に合わせて、評価の総括の流れをあらかじめ各学校において適切に設定することが大切です。

(1) A、B、Cの数を基に総括する方法の流れ

ア 単元ごとの観点別学習状況の評価

精選した評価の場面において各観点で記録として残す評価を行い、何回か行った評価結果のA、B、Cの数が多いものを、各観点の評価とします。

(例1) 単元における評価

時数	1	2	3	4	5	6	7	8	定期 考査 (当該単元に 係る設問の 評価)	評 価		
評価方法		レ ポ ー ト ①	ワ ー ク シ ー ト ①		ノ ー ト ①	ワ ー ク シ ー ト ②		ワ ー ク シ ー ト ③			レ ポ ー ト ②	ノ ー ト ②
知識・技能					B					B	A	B
思考・判断・表現			B			A		B			B	B
主体的に学習に取り組む態度		B							A		—	A

※ 1、4、6時限においては記録として残さず、学習改善につなげる評価を行う。

※ 「主体的に学習に取り組む態度」については、「A」と「B」は同数であるが、第8時の時点で重きを置いて評価を行い、「A」と総括。

※ 定期考査においては、「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価することとし、それぞれの観点における実現状況を見取ることができる問題を作成する。

イ 学期ごとの観点別学習状況の評価の総括

各単元の観点別学習状況の評価結果を総括する場合、A、B、Cの数が最も多いものが、その学期における各観点の評価となります。

(例2) 学期末における観点別学習状況の評価の総括

※ 知…知識・技能、思…思考・判断・表現、態…主体的に学習に取り組む態度（以下、同様）

観点	単元1			単元2			単元3			1学期の評価		
	知	思	態	知	思	態	知	思	態	知	思	態
生徒①	A	B	A	B	B	B	A	A	B	A	B	B
生徒②	B	B	B	B	A	B	B	A	B	B	A	B
生徒③	A	B	A	C	C	B	B	C	B	B	C	B

※ A、B、Cの数が同数の場合や三つの記号が混在する場合の総括の方法は、あらかじめ各学校において決めておく。

定期考査を行う場合、(例2)で示した方法以外にも、定期考査を単独で評価し、各単元と並べて総括する方法も考えられます。

(例3) 学期末における観点別学習状況の評価の総括(各単元と定期考査の評価を並べて評価する場合)

観点	単元1			単元2			単元3			定期考査			1学期の評価		
	知	思	態	知	思	態	知	思	態	知	思	態	知	思	態
生徒①	A	B	A	B	B	B	A	A	B	A	B	—	A	B	B
生徒②	B	B	B	B	A	B	B	A	B	B	A	—	B	A	B
生徒③	A	B	A	C	C	B	B	C	B	B	C	—	B	C	B

ウ 学年末における観点別学習状況の評価の総括

各学期の観点別学習状況の評価から、各観点でA、B、Cの数が最も多いものが、その学年における各観点の評価となります。

(例4)

観点	1学期			2学期			3学期			学年末の評価		
	知	思	態	知	思	態	知	思	態	知	思	態
生徒①	A	B	B	A	A	A	B	A	A	A	A	A
生徒②	B	A	B	B	A	A	C	B	A	B	A	A
生徒③	B	C	B	C	C	B	B	B	B	B	C	B

エ 観点別学習状況の総括結果を「評定」に総括

各学校において、あらかじめ作成している換算表と照らし合わせて、観点別学習状況の総括結果を「評定」へと総括します。

(例5) 換算表

知	思	態	知	思	態	知	思	態	評定
A	A	A	/			/			
A	A	B							A
A	B	B	B	A	B	B	B	A	3
B	B	B	/			/			

換算表を用いた評定への総括

観点	学年末の評価			評定
	知	思	態	
生徒①	A	A	A	5
生徒②	B	A	A	4
生徒③	B	C	B	3
生徒④	B	B	B	3

(2) A、B、Cを数値に置き換えて総括する方法の流れ

ア 単元ごとの観点別学習状況の評価

精選した評価の場面において各観点で記録として残す評価を行います。その後、A、B、Cをあらかじめ各学校で設定しておいた数値に置き換えて平均値を出し、その平均値を基にして評価を出します。

(例1) 単元における評価

時数	1	2	3	4	5	6	7	8	平均値	評価	
評価方法		レポート①	ワークシート①	ノート①	ノート②	ワークシート②		ワークシート③			レポート②
知識・技能				B(2)	B(2)				B(2)	2.0	B
思考・判断・表現			B(2)			A(3)		A(3)		2.7	A
主体的に学習に取り組む態度		B(2)						A(3)		2.5	B

上記表における評価の基準

A…(平均値) > 2.5 B…2.5 ≥ (平均値) ≥ 1.5 C…1.5 > (平均値)

※ 1、6時限においては評価を記録として残さず、学習改善につなげる評価を行う。

イ 学期ごとの観点別学習状況の評価の総括

(7) 考査を行う場合、考査以外の評価(評価Ⅰ)と、考査による評価(評価Ⅱ)を合わせて、学期ごとの観点別学習状況の評価の総括を行うことが考えられます。

その際、まず評価Ⅰと評価Ⅱを総括する際の評価割合を各学校において決めておく必要があります。

(例2) 考査以外の評価(評価Ⅰ)と考査による評価(評価Ⅱ)の評価割合の例

評価の観点	評価の割合	考査以外の評価 (評価Ⅰ)	考査による評価 (評価Ⅱ)
知識・技能	35%	10%	25%
思考・判断・表現	35%	10%	25%
主体的に学習に取り組む態度	30%	30%	—
計	100%	50%	50%

※ 評価の観点ごとに評価Ⅰと評価Ⅱの割合を、あらかじめ学校ごとに決めておく。

※ 「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」及び「学びに向かう力、人間性等」については偏りなくその資質・能力の育成を図っていくため、3観点の評価割合については、教科の特性や内容のまとまり等に応じて、バランスよく適切に定める必要がある。

- (イ) 学期末における考査以外の評価（評価Ⅰ）と考査による評価（評価Ⅱ）をそれぞれ行い、（例２）で決めた割合で換算し、それぞれ点数化します。

（例３）学期末における考査以外の評価（評価Ⅰ）の総括

評価方法	単元①	単元②	単元③	単元④	評価Ⅰ
知識・技能（10%）	B (2)	A (3)	B (2)	B (2)	7.5/10
思考・判断・表現（10%）	A (3)	B (2)	B (2)	A (3)	8.3/10
主体的に学習に取り組む態度（30%）	B (2)	A (3)	A (3)	A (3)	27.5/30

上記表における評価Ⅰの計算式

$$\text{「知識・技能」} = (2+3+2+2) \div 12 \times 10 = 7.5$$

$$\text{「思考・判断・表現」} = (3+2+2+3) \div 12 \times 10 = 8.3 \text{（四捨五入）}$$

$$\text{「主体的に学習に取り組む態度」} = (2+3+3+3) \div 12 \times 30 = 27.5 \text{（四捨五入）}$$

- ※ 単元ごとの観点別学習状況の評価を数値化し、評価Ⅰにおける各観点の換算値を出す。
- ※ 「知識・技能」及び「思考・判断・表現」は、（例２）から評価の割合が10%であるため、10点満点でそれぞれ換算する。
- ※ 「主体的に学習に取り組む態度」は、（例２）から評価の割合が30%であるため、30点満点で換算する。

（例４）考査による評価（評価Ⅱ）

評価方法	中間考査	期末考査	1学期	評価Ⅱ
知識・技能（25%）	45/60	57/60	51/60	21.3/25
思考・判断・表現（25%）	27/40	31/40	29/40	18.1/25
主体的に学習に取り組む態度（—%）	—	—	—	—

上記表における評価Ⅱの計算式

$$\text{「知識・技能」} = \{(45+57) \div 2\} \div 60 \times 25 = 21.3 \text{（四捨五入）}$$

$$\text{「思考・判断・表現」} = \{(27+31) \div 2\} \div 40 \times 25 = 18.1 \text{（四捨五入）}$$

- ※ 定期考査においては、あらかじめ「知識・技能」と「思考・判断・表現」をみる問題を明確に区別しておく必要がある。
- ※ この事例においては、100点満点のテストにおいて、それぞれの観点における問題の配点を、「知識・技能」は60点、「思考・判断・表現」は40点としている。
- ※ 1学期の得点は、「中間考査」と「期末考査」を足して2で割った数値としており、この数値から評価Ⅱを算出する。

(ウ) (ア)と(イ)の過程で算出した評価Ⅰと評価Ⅱを合わせて1学期の評価を行います。
 (例5) 1学期末の観点別学習状況の評価

評価方法	評価Ⅰ	評価Ⅱ	1学期評価点	1学期評価
知識・技能 (35%)	7.5	21.3	29	A
思考・判断・表現 (35%)	8.3	18.1	26	B
主体的に学習に取り組む態度 (30%)	27.5	—	28	A
合計			83	—

上記表における評価の基準				
○ 「知識・理解」	A… (評価点) ≥ 28 B… $28 > (\text{評価点}) > 7$ C… $7 \geq (\text{評価点})$			
○ 「思考・判断・表現」	A… (評価点) ≥ 28 B… $28 > (\text{評価点}) > 7$ C… $7 \geq (\text{評価点})$			
○ 「主体的に学習に取り組む態度」	A… (評価点) ≥ 24 B… $24 > (\text{評価点}) > 6$ C… $6 \geq (\text{評価点})$			

- ※ 1学期評価点及び合計の欄については、少数点以下を四捨五入している。どの段階において四捨五入を行うか、ということについても各学校で統一する。
- ※ 各観点の評価点を、あらかじめ各学校で決めた基準に照らし合わせて観点別の評価を決める。

ウ 学年末における観点別学習状況の評価の総括

1学期から3学期の評価点の平均値を学年末評価点とし、あらかじめ各学校で決めた基準に照らし合わせて学年末の観点別学習状況の評価の総括を行います。その上で、各学校において、あらかじめ作成している換算表と照らし合わせて、観点別学習状況の総括結果を「評定」へと総括します(3(1)エ参照)。

(例6)

評価方法	1学期 評価点	2学期 評価点	3学期 評価点	学年末 評価点	学年末 観点別 学習状況 の評価	評定
知識・技能	29	25	25	26	B	3
思考・判断・表現	26	25	22	24	B	
主体的に学習に取り組む態度	28	23	26	26	A	
合計	83	73	73	76	—	

第 2 章 各教科等における単元ごとの学習評価について

ここでは、令和 3 年 8 月に公表された「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（文部科学省国立教育政策研究所）の事例を中心に、各教科等における単元ごとの学習評価について具体的に説明します。指導と評価の計画の作成をしたり、評価方法を考えたりする際などに、参考にしてください。

1 各学科に共通する教科

国語：現代の国語

単元名
情報の妥当性や信頼性を吟味しながら複数の情報を組み合わせて意見文を書こう

内容のまとめ
〔知識及び技能〕(2)情報の扱い方に関する事項
〔思考力、判断力、表現力等〕「B書くこと」

《授業例》

1 単元の目標

- (1) 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うことができる。
〔知識及び技能〕(2)エ
- (2) 目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ア
- (3) 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫することができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ウ
- (4) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

- ・ 「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」については、基本的に指導事項の文末を「～できる」として示す。
- ・ 「学びに向かう力、人間性等」については、いずれの単元においても当該科目の目標を示す。

2 本単元における言語活動

論理的な文章や実用的な文章を読み、本文や資料を引用しながら、自分の意見や考えを論述する。

(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕B(2)ア)

- ・ 作成の際は、指導事項と対応している学習指導要領記載の言語活動例を参考にする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使っている。 (2)エ	①「書くこと」において、目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ②「書くこと」において、自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えている。 (B(1)ウ)	①意見文を書くことを通して、情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め、伝えたいことを明確にし、自分の考えや事柄が的確に伝わるよう根拠の示し方や説明の仕方を粘り強く考える中で、自らの学習を調整しようとしている。

- ・ 「内容のまとめ」ごとの評価規準の考え方等を踏まえて作成。
- ・ [知識・技能]は、[知識及び技能]の該当指導事項の文末を「～している」として作成。
- ・ [思考・判断・表現]は、[思考力、判断力、表現力等]の該当指導事項の冒頭に「(領域)において」と領域を明記し、その文末を「～している」として作成。
- ・ 国語科の内容には、「学びに向かう力、人間性等」に係る指導事項は示されていない。そのため、当該科目目標(3)を参考に作成。

4 指導と評価の計画（全5単位時間想定）

次	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	○単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ○情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について考える。 ○意見文作成に関する学習課題を知る。 ○学習課題の分析を行い、題材について考える。	[知識・技能] ①	「記述の確認」
2	○目的に応じた情報検索の方法を考え、必要な情報を収集する。 ○集めた情報について、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、主張と根拠を考え、テーマを付箋にまとめる。 ○グループで各自の主張を述べ合い、個々の根拠の妥当性や信頼性を相互に点検する。	[思考・判断・表現] ①	「記述の分析」
3	○伝えたい内容を検討するとともに、情報の組合せや根拠の示し方の工夫を考え、構成メモに記述する。 ○構成メモに基づいて意見文を作成する。	[思考・判断・表現] ②	「記述の確認」
4	○推敲した後、グループで相互評価を行い、自分の文章の改善に生かす。 ○単元の学習で得た気づきをノートに記述し、グループや全体で共有する。	[主体的に学習に取り組む態度] ①	「記述の確認」

- 各観点の実現状況を適切に捉えられる場面及び評価方法を精選する。

5 各観点における評価方法

○ 本事例における評価方法について

[知識・技能] ①	[思考・判断・表現] ①	[思考・判断・表現] ②	[主体的に学習に取り組む態度] ①
「記述の確認」 ノート ・情報の妥当性や信頼性を確認する方法について理解を深めているかを確認する。	「記述の分析」 ワークシート(思考ツールを印刷したもの) ・適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしているかを分析する。	「記述の確認」 構成メモ ・自分の考えが的確に伝わるよう根拠の示し方や表現の工夫をしているかを確認する。	「記述の確認」 ノート ・自分の考えを的確に伝えるため、情報の吟味や根拠の示し方をどのように工夫しようとしたのかを確認する。

(1) [知識・技能] ①における評価方法

「信頼できる情報とは何か」について考えさせたり、「根拠としての確かさ、ふさわしさ」の吟味の仕方をグループで考えさせたりした後、個人で根拠としての妥当性や信頼性の吟味の仕方についてノートへ記述させる。その記述内容について、問題点を具体的に取り上げ、情報の妥当性や信頼性を確認するための適切な方法を考えているか、ノートの記述内容を分析して評価する。

〈評価例〉

「おおむね満足できる」状況 (B)

根拠としての情報の妥当性や信頼性を確認する適切な方法について具体的に記述している。

【生徒Uの記述の一部】

- 気付いたこと：資料1では専門家の体験談が中心に書かれていた。専門家だから信じたいけれど、この人の場合に限られるかも知れない。だから、本当にそうなのか分からない。
- 吟味の仕方：同じテーマを取り上げた別の資料やデータで確認する。

傍線部において、根拠としての信頼性について「個別の事例ゆえに一般化できないのではないか」という疑問を抱いている。また、波線部においては、吟味の仕方について具体的に記述をしている。そのため、評価規準を満たしていると判断し、「おおむね満足できる状況 (B)」と評価した。

【生徒Vの記述の一部】

- 気付いたこと：資料2の本文に「ここ数年は大きく減っている」とあるが、次のページのグラフでは全体から見てあまり下がっていないから本当に「大きく」減っていると言えるのか？「ここ数年」とあるがいつの調査か書かれていないから具体的な期間が分からない。
- 吟味の仕方：本文の内容だけでなくグラフや図そのものが信頼できるのかを確かめるため、情報源や調査の時期を調べる。また、資料2は一部なので前後や全体を見てその上で筆者の指摘する「減少傾向」が本当なのか考える。

傍線部において根拠となるグラフと主張との関係に着目し、本文の記述とグラフから読み取れる内容との不一致と調査時期に関する情報の不足の2点を指摘している。また、波線部において根拠とされる「グラフや図」の信頼性を「情報源や調査の時期」で確認するとともに、提示された資料が部分的なものであることに注目し、全体を通して筆者の意見が妥当なものであるかを再検討しようとしている。

主張と根拠の関係が誰から見ても適切なものかという視点に立ち、根拠としての妥当性や信頼性を確認する的確な方法を複数挙げていることから、「知識及び技能」を効果的に活用していると判断し、「充分満足できる」状況（A）と判断した。

【生徒Wの記述の一部】

- 気付いたこと：資料1の専門家の体験談は、インターネットにも同様のものが多くあったので、情報としては問題ないと思う。
- 吟味の仕方：公的機関が出しているものを中心に上げていく。

傍線部において、単に情報量の多さで、波線部において、発信の出処のみで判断しているため、「努力を要する」状況（C）と判断した。

→ 媒体の種類が情報の信頼性を判断する材料の一つになり得ることを理解している点は認めつつ、あくまでも一つ一つの情報が吟味の対象であること、特に意見を支える根拠としての妥当性や信頼性が検討対象であることを確認させた。

また、引用の仕方が妥当であっても、論旨や文脈にふさわしいかを考えることが重要であることなどを具体的に示し、再検討を促した。

(2) [思考・判断・表現] ①における評価方法

取り上げるテーマを付箋に具体的に記述させることで、本単元の目的（「社会の情報化により影響を受けた文化」について意見を書く）に対して適切な題材であるかを判断させる。また、集めた情報を、思考ツール（情報分析チャート）を用いて「事実」と「伝聞」に分類しながら吟味させた後、必要な情報を組み合わせて「意見」を考え、ワークシートに記述させた。

〈評価例〉

「おおむね満足できる」状況（B）

適切なテーマを決め付箋に書き、集めた情報の妥当性や信頼性について思考ツールを用いて吟味し、伝えたいことを具体的にワークシートに記述している。

【生徒Xの記述の概要】

「オンライン会議」を取り上げ、付箋にテーマとして「効率化と円滑なコミュニケーションの両立」と記述。

社会の情報化により会議の在り方やコミュニケーションの取り方が影響を受け、変化したことを指摘できる事例であるため、評価規準を満たしていると判断し、「おおむね満足できる状況（B）」と評価した。

(3) [思考・判断・表現] ②における評価方法

構成メモに「工夫したい点」、「構成表」等の項目を備え、自分の考えが的確に伝わるよう根拠の示し方や説明の仕方について記述させて評価する。

〈評価例〉

「おおむね満足できる」状況（B）

自分の考えが的確に伝わるよう根拠の示し方や説明の仕方の工夫を構成メモに具体的に記述している。

【生徒Yの記述の概要】

「電子書籍の普及により高校生の『読書離れ』に歯止めがかかるのか」というテーマで考え、委員会で全校生徒に行ったアンケート、文化庁の『世論調査』、複数の新聞から選んだ投書、電子書籍をよく利用する知人や漫画しか読まない姉へのインタビュー等を集めた。「工夫したい点」欄には、『世論調査』で全国的な傾向を示して問題提起したのち、身近な問題であることを分かってもらうために委員会のアンケート結果（貸出冊数と読書時間に占める電子書籍利用の割合）を出す」と記述。

「構成表」には「①本当に高校生は本を読まないのか（問いかけ、話題）、②問題提起（『世論調査』を利用）、③『委員会アンケート』の分析から意見を述べる、④新聞の投書を引用して反論を想定、⑤それを踏まえて結論を述べる」と記述。

傍線部から資料の提示の順序を考えており、自分の考えが的確に伝わるよう根拠の示し方と説明の仕方を考えていると判断し、「おおむね満足できる状況（B）」と評価した。

(4) [主体的に学習に取り組む態度] ①における評価方法

毎次の目標に照らして学習活動の振り返りを行い、「学習の成果」と「課題」をノートに記述させた。そこに表れている、学習に向き合うことによる変容の姿と自己の課題に対する省察の内容を基に評価する。

〈評価例〉

「おおむね満足できる」状況（B）

積極的に意見文を書き、試行錯誤しながら、自分の考えや事柄が的確に伝わるよう情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方や根拠の示し方を粘り強く考えようとしていることをノートに記述している。

【生徒Zの記述の内容】

(第1時) ○学習の成果：不足内容について、とりあえず多くの資料を集めることができた。
○課題：資料の活用の仕方についてはよくわからないので、検討が必要だ。

：

(第5時) ○学習の成果：推敲により最初の文章とは流れが大きく異なることとなったが、順を追って内容を理解していけるような文章となった。
○課題：根拠がまだ弱い。より適切な資料を精選するようにしていきたい。

傍線部により「粘り強さ」を、波線部により「積極性・主体性」を確認することができたため、「おおむね満足できる状況（B）」と評価した。

《参考》評価メモ

評価規準	観点	[知識・技能]		[思考・判断・表現]			[主体的に学習に取り組む態度]	
		①情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使っている。(2)エ	②「書くこと」において、目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	①「書くこと」において、自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の出し方や説明の仕方を考えている。(B(1)ウ)	②「書くこと」において、自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の出し方や説明の仕方を考えている。(B(1)ウ)	①意見文を書くことを通して、情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め、伝えたいことを明確にし、自分の考えや事柄が的確に伝わるよう根拠の出し方や説明の仕方を粘り強く考える中で、自らの学習を調整しようとしている。		
方法	評価方法	記述の確認	単元における評価	記述の分析	記述の確認	単元における評価	記述の確認	単元における評価
番号	氏名	第1次 ○月○日		第2次 ○月○日	第3次 ○月○日		第4次 ○月○日	
1	生徒ア	B	B	C 話題のみ→取り上げる視点や内容を再考	B	B	B	B
2	生徒イ	A 情報の吟味の仕方の理解を深め、論点整理に活用	A	B	B	B	B	B
3	生徒ウ	B	B	B	A 複数の適切な根拠を組み合わせ、論拠に加えて的確な複数の事例あり。	B	B	B

6 観点別学習状況の評価の総括

時	学習活動	知	思①	思②	態
1	<ul style="list-style-type: none"> 単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方を考える。 グループで例文を読み、主張と根拠となっている情報は何か、不足していると考えられる情報や疑問点の有無などについて述べ合う。 情報の妥当性や信頼性を吟味する仕方についてノートに記述する。 				
2	<ul style="list-style-type: none"> 「社会の情報化により、従来の文化が様々な影響を受け変容した具体例を取り上げ、今後の在り方や課題について意見文にまとめる」という学習課題について知る。 学習課題を踏まえたキーワードを出し合う。 キーワードを手がかりに身近な例を二つ挙げ、「社会の情報化」が「文化」に与えた影響や変化についてノートに記述する。 二つの例について、共通点や相違点などを整理しながら取り上げる題材を考えるとともに、論じる立場を決める。 	B			
3	<ul style="list-style-type: none"> 情報検索の方法を考えながら、必要な情報を収集する。 集めた情報の妥当性や信頼性について思考ツールを用い吟味しながら根拠を検討し、ワークシートに記述する。 グループでワークシートの記述をもとに各自の主張を述べ合い、その根拠について情報の妥当性や信頼性を相互に点検する。 		B		
4	<ul style="list-style-type: none"> 伝えたい内容を検討するとともに、情報の組合せや根拠の出し方や工夫について考え、構成メモに記述する。 構成メモに基づいて意見文を作成する。 			A 複数の適切な根拠を組み合わせ、論拠に加えて的確な複数の事例	
5	<ul style="list-style-type: none"> 推敲した後、グループで相互評価を行い、自分の文章を振り返り、加筆、修正に生かす。 単元の学習で得た気付きをノートに記述し、グループや全体で共有する。 				B
ペーパーテスト（定期考査等）		A	B	B	—
単元の総括		A	B		B

- 「知識・技能」は、第2時のノートの記述の確認とペーパーテストで評価した。その結果、「BA」となるが、ペーパーテストの方がより実現状況を適切にみることで、「A」と総括した。
- 「思考・判断・表現」は、第3時の記述の分析及び第4時の記述の確認において「BA」、ペーパーテストにおいて「BB」、併せて「BAB B」となることから、総括して「B」とした。
- 「主体的に学習に取り組む態度」は、記述内容から主体性や粘り強さを確認し「B」とした。

高等学校国語科の「内容のまとめり」

高等学校国語科における「内容のまとめり」は、以下のようになっている。

各科目とも、「2 内容」は、〔知識及び技能〕と〔思考力、判断力、表現力等〕の2つの「内容のまとめり」で示されている。これらのまとめりは、更に以下のように分けられている。

〔知識及び技能〕

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項
- (2) 情報の扱い方に関する事項
- (3) 我が国の言語文化に関する事項

〔思考力、判断力、表現力等〕

A 話すこと・聞くこと

B 書くこと

C 読むこと

(「現代の国語」の場合)

A 書くこと

B 読むこと

(「言語文化」、「論理国語」、「文学国語」の場合)

A 話すこと・聞くこと

B 書くこと

(「国語表現」の場合)

A 読むこと

(「古典探究」の場合)

地理歴史：地理総合

単元名
地図や地理情報システムと現代世界

内容のまとめり
A 地図や地理情報システムで捉える現代世界
(1) 地図や地理情報システムと現代世界

1 単元の目標

- (1) 現代世界の地域構成を示した様々な地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解することができる。 【知識及び技能】ア(ア)
- (2) 日常生活の中で見られる様々な地図の読図などを基に、地図や地理情報システム（以下、本事例では「GIS」という）の役割や有用性などについて理解することができる。 【知識及び技能】ア(イ)
- (3) 現代世界の様々な地理情報について、紙地図や地理院地図などの様々なGISなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。 【知識及び技能】ア(ウ)
- (4) 現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、「貿易相手国の変容とその要因」などの主題を設定し、「日本の貿易相手国はどのように変化してきたのだろうか、また、なぜ変化したのだろうか」などを、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】イ(ア)
- (5) 地図やGISについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、「GISを使えば、どのようなことが分かるだろうか、また、地理情報を効果的に伝えるには、どのような方法が適切だろうか」などを、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】イ(イ)
- (6) 地図やGISと現代世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。 【学びに向かう力、人間性等】

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 現代世界の地域構成を示した様々な地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解している。 (ア(ア)) ② 日常生活の中で見られる様々な地図の読図などを基に、地図やGISの役割や有用性などについて理解している。 (ア(イ)) ③ 現代世界の様々な地理情報について、紙地図や地理院地図などの様々なGISなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付けている。 (ア(ウ))	① 現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、「貿易相手国の変容とその要因」などの主題を基に、「日本の貿易相手国はどのように変化してきたのだろうか、また、なぜ変化したのだろうか」などを、多面的・多角的に考察し、表現している。 (イ(ア)) ② 地図やGISについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、「GISを使えば、どのようなことが分かるだろうか、また、地理情報を効果的に伝えるには、どのような方法が適切だろうか」などを、多面的・多角的に考察し、表現している。 (イ(イ))	① 地図やGISと現代世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

- ・ 地理歴史科においては、「内容のまとめり」が一つの「単元」としてのまとめりをもつため、「内容のまとめりごとの評価規準」を基本形として、各「単元」の目標と評価規準を作成する。
- ・ 「単元の目標」は、「単元の評価規準」と表裏一体をなすよう、基本的に文末を「～できる」として示す。
- ・ 「内容のまとめり」を一つの「単元」として設定する場合には、「内容のまとめりごとの評価規準」を「単元の評価規準」として転記し、用いることが可能である。
- ・ 「内容のまとめりごとの評価規準」を踏まえつつ、学習指導要領解説等の記述を参考として、具体的な「単元の評価規準」を設定することも考えられる。

3 指導と評価の計画（全 10 単位時間想定）

○…「評価に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」

知… [知識・技能]、思… [思考・判断・表現]、態… [主体的に学習に取り組む態度]

時	主たる学習活動	知	思	態	評価規準等
1	<ul style="list-style-type: none"> 世界銀行などのウェブサイトへアクセスし、そこで見られる様々な統計地図から読み取ったことを、ワークシート1にまとめる。 G I Sで調べることができる「世界や地域の課題や特色」を予想して、ワークシート1にまとめる。 	●		●	<ul style="list-style-type: none"> ウェブ地図などで見られる様々な統計地図から、情報を適切に読み取っている。(知③) 地図やG I Sを使ってどのようなことを調べることができるかを予想している。(態①)
2	<ul style="list-style-type: none"> 地球儀やデジタル地球儀などで、ある地点からの方位や距離、位置や分布を調べた結果を踏まえて、様々な地図の特長や短所、用途をワークシート2にまとめる。 等時帯図などの読図を基に、時差の仕組みについてワークシート2にまとめる。 	●		●	<ul style="list-style-type: none"> 地球儀やデジタル地図、紙地図などの形態の異なる様々な地図について、表現上の特長や短所、用途を理解している。(知③) 等時帯図の使い方や、時差のしくみについて理解している。(知①)
3	<ul style="list-style-type: none"> 地理院地図などのウェブ地図を用い、海洋国家である日本の位置や広がり、海洋の果たす役割について調べたことをワークシート3にまとめる。 	○			○海洋国家である日本の位置や広がり、海洋の果たす役割について理解している。(知①)
4	<ul style="list-style-type: none"> 道路図、鉄道路線図、観光案内図などの身の回りにある地図を収集し、それらに見られる地図表現の工夫について考察したことをワークシート4にまとめる。 様々な統計地図の読図や作図などを基に、階級区分図、図形表現図などの統計地図の基本的な特性と用途に応じた適切な活用について考えたことや、地図表現の工夫について分かったことをワークシート4にまとめる。 	○	●		<ul style="list-style-type: none"> 位置や範囲、縮尺などに着目して、身の回りの地図に見られる様々な表現上の工夫について考察したことを文章にまとめている。(思②) ○様々な統計地図の基本的な特性を考え、統計の種類や主題図の用途などに応じて、地図の表現方法を適切に選択して作図している。(知③)
5	<ul style="list-style-type: none"> 「学校を中心とした地域を概観しよう」などのテーマを設定し、地理院地図で学校周辺地域の地形や土地利用などの情報を収集し、ワークシート5にまとめる。 	○			○地理院地図を使って、学校周辺、通学路の環境などに関する情報を適切に収集している。(知③)
6 7	<ul style="list-style-type: none"> 様々な国家群の加盟国の分布図などを基に、国家間の結び付きを概観する。 国際貿易センターの貿易統計などを基に、異なる年次における日本の輸出額の国別割合を示す流線図を作成し、その変化の要因についてインターネットを使って調べ、考察した結果をワークシート6にまとめる。 	●	○		<ul style="list-style-type: none"> ●国家間の結び付きの現状について理解している。(知①) ○作成した流線図などを基に、位置や範囲などに着目して、貿易相手国の変化とその要因について多面的・多角的に考察したことを文章にまとめている。(思①)
8 9	<ul style="list-style-type: none"> 国内の貨物輸送に関する地図や統計資料などを収集し、それらを基に様々な輸送手段が国内をどのように結び付けているのかを読み取り、ワークシート7にまとめる。 貨物輸送からみた国内の結び付きや様々な輸送手段の特色について、考察した結果をワークシート7にまとめる。 	●		●	<ul style="list-style-type: none"> ●自ら収集した地図や統計資料を基に、様々な輸送手段が国内をどのように結び付けているのかを読み取り、文章にまとめている。(知③) ●貨物輸送からみた国内の結び付きやそれぞれの輸送手段の特色などについて理解している。(知①)
10	<ul style="list-style-type: none"> 単元の学習を振り返り、地図やG I Sの目的や用途、活用の仕方について考察したことをワークシート8にまとめる。 単元の学習を振り返り、地図やG I Sの社会的な役割や有用性についての自分の考えをワークシート8にまとめる。 今後の学習などで、地図やG I Sを使ってどのようなことを調べたいか、どのように活用していきたいかについてワークシート8にまとめる。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ○地図やG I Sの目的や用途、活用の仕方などを、多面的・多角的に考察している。(思②) ○地図やG I Sの社会的役割や有用性について理解している。(知②) ○地図やG I Sを使って調べたいことや活用上の疑問点などを整理し、今後の学習で地図やG I Sを意欲的に活用しようとしている。(態①)

- ・ 「評価に用いる評価」は、毎回の授業ではなく、場面を精選して行う。
- ・ 「学習改善につなげる評価」については、「評価に用いる評価」に至るまでの指導の在り方として、「指導と評価の一体化」の趣旨に留意することが必要である。

4 各観点における評価方法

○ 本事例における評価方法の例

[知識・技能] ③	[思考・判断・表現] ①	[主体的に学習に取り組む態度] ①
ワークシート5 (第5時) ・地理院地図を使って、情報を適切に収集し、読み取り、まとめるための基礎的・基本的な技能が身に付いていることを確認する。	ワークシート6 (第6・7時) ・自作の地図(流線図)などを基に、地図上の位置や範囲に着目して、日本の貿易相手国の変化とその要因について、多面的・多角的に考察していることを確認する。	ワークシート8 (第10時) ・地図やGISを使って調べたいことや活用上の疑問点などを整理し、今後の学習で地図やGISを意欲的に活用しようとしていることを確認する。

(1) [知識・技能] ③における評価方法

「学校を中心とした地域を概観しよう」をテーマとして、地理院地図を用いて、学校の位置、学校の標高、自宅から学校までの通学路の距離、学校周辺地域の地形起伏や地形履歴などの情報を収集させる問いを設定し、解答をワークシート5にまとめさせる。解答の記述内容から、地理院地図を活用する基礎的・基本的な技能が身に付いているかを確認し、評価する。

〈評価例〉

「おおむね満足できる」状況(B)

地理院地図の様々な機能を適切に活用して必要な情報を収集し、ワークシートに記述している。

【生徒Xの記述】

(問い:「色別標高図」やツール「3D」を使うと何が分かるか)

市の西は山間地になっているのに対して、東は低平な土地が広がる平野になっている。

(問い:「年代別の写真」で新旧の空中写真を比較すると何が分かるか)

田の広がっていたところに校舎ができています。また、道路が増えており、高速道路や新幹線の線路も新たに建設された。

問いに応じた地理院地図の機能を活用して、適切に情報を収集していることから、「おおむね満足できる」状況(B)と評価した。

(2) [思考・判断・表現] ①における評価方法

統計資料などを基に、異なる年次における日本の輸出額の国別割合を示す流線図を作成することを通じて、貿易相手国の変化について読み取らせ、その要因についてインターネット等を用いて調べ、考察した結果をワークシート6にまとめさせる。その記述内容について、位置や範囲に着目して貿易相手国の変化を読み取ることができているか、変化の要因について多面的・多角的に考察できているかを確認し、評価する。

〈評価例〉

「おおむね満足できる」状況(B)

資料から日本の貿易相手国の位置や範囲に着目して変化を読み取り、その要因について多面的・多角的に考察し、ワークシートに記述している。

【生徒Yの記述】

流線図より、輸出シェアを大きく伸ばしている中国を中心に、日本近隣のアジア諸国との結びつきが強くなっていることが読み取れる。近年、安価な労働力を求めて、中国などのアジア諸国への外国企業の進出が加速しており、めざましい経済成長を達成している国もある。それが、資料にみられるような貿易相手国の変化につながったのではないだろうか。

傍線部において、流線図を基に、貿易相手国の位置や範囲の傾向に着目して変化を読み取っている。また、波線部において、変化の要因として、アジア諸国の経済成長とその背景にある外国企業の動向について考察している。以上より、「おおむね満足できる」状況(B)と評価した。

(3) [主体的に学習に取り組む態度] ①における評価方法

単元の学習を振り返り、地図やGISについて、「何が分かったか」や「さらに調べ、明らかにしたいこと」等についてワークシート8にまとめさせる。その記述内容について、今後の学習で地図やGISを意欲的に活用しようとしているかを確認し、評価する。

〈評価例〉

「おおむね満足できる」状況 (B) —
 地図やGISについての関心を高め、今後の学習においても意欲的に活用しようとしていることをワークシートに記述している。

【生徒Zの記述】

地図やGISを効果的に使用することで、世界や地域の様々な地理的事象や、そこにみられる課題が明らかになることが分かった。今後は、地理院地図の他の機能の使い方を覚え、私たちが生活している地域の地形と自然災害のリスクの関係について調べてみたい。

傍線部において、GISについて今後も学習を深めようとしている。また、波線部において、GISを活用して社会に見られる課題を主体的に追究しようとしている。以上より、「おおむね満足できる」状況 (B) と評価した。

5 観点別学習状況の評価の総括

時	主たる学習活動（「評価に用いる評価」を行う場面）	知①	知②	知③	思①	思②	態
3	・地理院地図などのウェブ地図を用い、海洋国家である日本の位置や広がり、海洋の果たす役割について調べたことをワークシート3にまとめる。	B					
4	・道路図、鉄道路線図、観光案内図などの身の回りにある地図を収集し、それらに見られる地図表現の工夫について考察したことをワークシート4にまとめる。 ・様々な統計地図の読図や作図などを基に、階級区分図、図形表現図などの統計地図の基本的な特性と用途に応じた適切な活用について考えたことや、地図表現の工夫について分かったことをワークシート4にまとめる。			A			
5	・「学校を中心とした地域を概観しよう」などのテーマを設定し、地理院地図で学校周辺地域の地形や土地利用などの情報を収集し、ワークシート5にまとめる。			B			
6 7	・様々な国家群の加盟国の分布図などを基に、国家間の結び付きを概観する。 ・国際貿易センターの貿易統計などを基に、異なる年次における日本の輸出額の国別割合を示す流線図を作成し、その変化の要因についてインターネットを使って調べ、考察した結果をワークシート6にまとめる。				A		
10	・単元の学習を振り返り、地図やGISの目的や用途、活用の仕方について考察したことをワークシート8にまとめる。 ・単元の学習を振り返り、地図やGISの社会的な役割や有用性についての自分の考えをワークシート8にまとめる。 ・今後の学習などで、地図やGISを使ってどのようなことを調べたいか、どのように活用していきたいかについてワークシート8にまとめる。		B			A	B
ペーパーテスト（定期考査等）		A	B	B	B	B	—
「知識」と「技能」の総括			B	B	—	—	—
単元の総括			B		A		B

- ・ [知識・技能] は、本事例ではGIS等に関する基礎的・基本的な技能の習得を重視していることから、以下の手順で「知識」に関わる観点と「技能」に関わる観点を均等に評価することとした。
 - 手順1 「知識」に関わる知①・知②の観点については、ワークシート3・ワークシート8の記述とペーパーテストの結果から「BBAB」となることから、総括して「B」とした。
 - 手順2 「技能」に関わる知③の観点については、ワークシート4・ワークシート5の記述とペーパーテストの結果から「ABB」となることから、総括して「B」とした。
 - 手順3 手順1、2から [知識・技能] の評価は「BB」となることから、これを総括して「B」とした。
- ・ [思考・判断・表現] は、ワークシート6・ワークシート8の記述とペーパーテストの結果から「AABB」となるが、ワークシートの記述の方が単元の目標の達成状況をより適切に見取ることができると判断し、総括して「A」とした。
- ・ [主体的に学習に取り組む態度] は、ワークシート8の記述から、「B」とした。

高等学校地理歴史科の「内容のまとめり」

高等学校地理歴史科における「内容のまとめり」は、以下のようになっている。

第1 地理総合

- A 地図や地理情報システムで捉える現代世界 (1) 地図や地理情報システムと現代世界
- B 国際理解と国際協力 (1) 生活文化の多様性と国際理解
- B 国際理解と国際協力 (2) 地球的課題と国際協力
- C 持続可能な地域づくりと私たち (1) 自然環境と防災
- C 持続可能な地域づくりと私たち (2) 生活圏の調査と地域の展望

第2 地理探究

- A 現在世界の系統地理的考察 (1) 自然環境
- A 現在世界の系統地理的考察 (2) 資源、産業
- A 現在世界の系統地理的考察 (3) 交通・通信、観光
- A 現在世界の系統地理的考察 (4) 人口、都市・村落
- A 現在世界の系統地理的考察 (5) 生活文化、民族・宗教
- B 現代世界の地誌的考察 (1) 現代世界の地域区分
- B 現代世界の地誌的考察 (2) 現代世界の諸地域
- C 現代世界におけるこれからの日本の国土像 (1) 持続可能な国土像の探究

第3 歴史総合

- A 歴史の扉
- B 近代化と私たち
- C 国際秩序の変化や大衆化と私たち
- D グローバル化と私たち

第4 日本史探究

- A 原始・古代の日本と東アジア
- B 中世の日本と世界
- C 近世の日本と世界
- D 近現代の地域・日本と世界

第5 世界史探究

- A 世界史へのまなざし
- B 諸地域の歴史的特質の形成
- C 諸地域の交流・再編
- D 諸地域の結合・変容
- E 地球世界の課題

公民：公共

単元名

公共的な空間における基本的原理

内容のまとめ

A 公共の扉

《授業例》

1 単元の目標

自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。

(1) 次のような知識を身に付けること。

ア 各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解することができる。

イ 人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解することができる。 [知識及び技能] (3)ア

(2) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現することができる。

[思考力、判断力、表現力等] (3)イ

(3) 次のような主体的に学習に取り組む態度を身に付けること。

よりよい社会の実現を視野に、公共的な空間における諸課題を主体的に解決しようとする。

[学びに向かう力、人間性等]

- ・ 「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」については、基本的に指導事項の文末を「～できる」として示す。
- ・ 「学びに向かう力、人間性等」については、いずれの単元においても当該科目の目標を示す。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解している。 (3)ア</p> <p>② 人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解している。 (3)ア</p>	<p>① 幸福、正義、公正などに着目して、公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。(3)イ)</p>	<p>① よりよい社会の実現を視野に、公共的な空間における諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>

- ・ [知識・技能] は、[知識及び技能] の該当指導事項の文末を「～している」として作成。
- ・ [思考・判断・表現] は、[思考力、判断力、表現力等] の該当指導事項の文末を「～している」として作成。
- ・ 公民科の内容には、「学びに向かう力、人間性等」に係る指導事項は示されていない。そのため、当該科目目標(3)を参考に作成。

3 指導と評価の計画（全5時間想定）

次	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	○ 公共的な空間における協働について <ul style="list-style-type: none"> ・ 利害対立の調整 ・ 市場による調整 ・ 国家による調整 	[思考・判断・表現] ①	「記述の分析」
2	○ 人権保障の意義と展開について <ul style="list-style-type: none"> ・ 人間の尊厳と平等 ・ 人権の歴史的発展 ・ 人権保障の広がり ・ 男女共同参画社会の実現に向けて 	[知識・技能] ①	「記述の確認」
3	○ 民主主義について <ul style="list-style-type: none"> ・ 民主主義とは何か ・ 直接民主制と間接民主制 ○ 立憲主義について <ul style="list-style-type: none"> ・ 法の支配と立憲主義 ・ 近代立憲主義の原理 ・ 憲法と民主主義 	[知識・技能] ②	「記述の確認」
4	○ まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共的な空間において生じる課題と解決策について、本単元で学習した内容を基に考察する。 	[主体的に学習に取り組む態度] ①	「記述の確認」

- ・ 各観点の実現状況を適切に捉えられる場面及び評価方法を精選する。

4 各観点における評価方法

○ 本事例における評価方法について

[知識・技能] ①	[知識・技能] ②	[思考・判断・表現] ①	[主体的に学習に取り組む態度] ①
「記述の確認」 ワークシート <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会生活において人権保障が実際に確保されるための方策について理解を深めているか確認する。 	「記述の確認」 ワークシート <ul style="list-style-type: none"> ・ 民主主義及び立憲主義について理解を深めているかを確認する。 	「記述の分析」 ワークシート <ul style="list-style-type: none"> ・ 利害対立の調整のしくみについて、多面的・多角的に考察し、分かりやすく表現しているかを分析する。 	「記述の確認」 ノート <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共的な空間において生じる課題について主体的に考察し、解決策を見いだしているかを確認する。

(1) [知識・技能] ①における評価方法

社会生活における人権保障の一つである雇用における積極的差別是正措置のメリットとデメリットについて個人で調べた後にグループで話し合い、その結果をワークシートに記述させた内容を確認して評価する。

〈評価例〉

「おおむね満足できる」状況（B）

雇用における積極的差別是正措置のメリットとデメリットに関する情報について効果的に調べ、まとめている。

【生徒Wの記述の概要】

【積極的差別是正措置のメリット】

- ・ 機会が与えられることで当事者のモチベーションが向上する
- ・ 採用する側にとっては優秀な人材が確保できる

【積極的差別是正措置のデメリット】

- ・ 優遇されない方に対する逆差別になる可能性がある
- ・ 優遇されない側の雇用を疎かにしてしまう可能性がある

傍線部において、積極的差別是正措置に関する複数のメリットとデメリットについての確かかつ効果的に調べ、まとめている。そのため、評価規準を満たしていると判断し、「おおむね満足できる状況（B）」と評価した。

(2) [知識・技能] ②における評価方法

民主主義及び立憲主義について、教科書に記載された資料やその他の資料から情報をまとめ、ワークシートに記述させる。その記述内容について、必要な情報を効果的に調べ、まとめることができるか、ワークシートの記述内容を確認して評価する。

〈評価例〉

「おおむね満足できる」状況（B）

民主主義及び立憲主義に関する情報について効果的に調べ、まとめている。

【生徒Xの記述の一部】

権力分立について…立法・行政・司法の各権力が、互いに抑制・均衡しあうしくみ。18世紀にフランスの哲学者モンテスキューによって提唱されて以来、世界の国々で広く採用されている。

傍線部において、権力分立の考え方、成立時期、場所、人物、現在の広がりなどについて記述している。そのため、評価規準を満たしていると判断し、「おおむね満足できる状況（B）」と評価した。

(3) [思考・判断・表現] ①における評価方法

公共的空間における協働をもたらす方法の一つとして、ごみの不法投棄を防ぐための方策をグループ学習で話し合い、その結果をワークシートに記述させた内容を分析して評価する。

〈評価例〉

「おおむね満足できる」状況（B）

ごみの不法投棄を防ぐための方法について多面的・多角的に考察し、分かりやすくワークシートに記述している。

【生徒Yの記述の概要】

「ごみの不法投棄を防ぐためには、罰則を厳しくするだけでなく、不法投棄によってどのような害が生じるか、マスコミ等を通じて人々に繰り返し伝える必要がある」と記述。

傍線部において、不法投棄を防ぐ方策について多面的・多角的に考察し、分かりやすく記述している。そのため、評価規準を満たしていると判断し、「おおむね満足できる状況（B）」と評価した。

(4) [主体的に学習に取り組む態度] ①における評価方法

毎時ごとに学習活動の振り返りを行い、「学習の成果」と「課題」をノートに記述させた。その内容に表れる、学習に向き合う姿と課題に対する意識の変容を基に評価する。

〈評価例〉

「おおむね満足できる」状況（B）

公共的な空間において生じる課題と解決策について、学習内容を踏まえて主体的に考察し、自分の意見を的確に伝えようとしていることをノートに記述している。

【生徒Zの記述の内容】

(第1時) ○学習の成果：先生が発言・板書した内容を、丁寧にノートに写すことができた。
○課題：写した言葉の意味までは、まだ十分に理解できていない。
⋮
(第5時) ○学習の成果：話し合いのときに周りの意見を聞くことで、より理解が深まった。
○課題：自分からもっと積極的に発言できるよう心がけたい。

傍線部により「主体性・積極性」を確認することができたため、「おおむね満足できる状況（B）」と評価した。

5 観点別学習状況の評価の総括

時	学習活動	知①	知②	思	態
1	<ul style="list-style-type: none"> 単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 社会における利害の調整のしくみとして、市場によるものと国家によるものがあることを理解する。 グループ学習により、ごみの不法投棄を防ぐためにどんな方法があるか話し合い、結果についてワークシートに記述する。 			B	
2	<ul style="list-style-type: none"> 社会における意見や利害の調整、意思決定における民主主義の意義と課題、直接民主制と間接民主制について理解する。 				
3	<ul style="list-style-type: none"> 基本的人権の尊重、人間の尊厳と平等の意義、人権の歴史的発展と人権保障の広がりについて理解する。 グループ学習により、積極的差別是正措置のメリットとデメリットについて話し合い、結果についてワークシートに記述する。 	B			
4	<ul style="list-style-type: none"> 法の支配の意味、近代立憲主義と権力分立、憲法と民主主義の関係について理解する。 民主主義及び立憲主義について、教科書記載の資料やその他の資料から必要な情報をまとめ、ワークシートに記述する。 		B		
5	<ul style="list-style-type: none"> 公共的な空間において生じる課題と解決策について、本単元で学習した内容を基に考察する。 単元の学習で得た気づきをノートに記述し、グループや全体で共有する。 				B
ペーパーテスト（定期考査等）		A		B	—
単元の総括		B		B	B

- 「知識・技能」は、第3時及び第4時のワークシートの記述の確認とペーパーテストで評価した。その結果、「BBA」となることから、総括して「B」とした。
- 「思考・判断・表現」は、第1時の記述の分析とペーパーテストで評価した。その結果、「BB」となることから、総括して「B」とした。
- 「主体的に学習に取り組む態度」は、記述内容から主体性や積極性を確認し、「B」とした。

高等学校公民科の「内容のまとめり」

高等学校公民科における「内容のまとめり」は、以下のようになっている。

第1 公共

- A 公共の扉
- B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち
- C 持続可能な社会づくりの主体となる私たち

第2 倫理

- A 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方
- B 現代の諸課題と倫理

第3 政治・経済

- A 現代日本における政治・経済の諸課題
 - (1) 現代日本の政治・経済
 - (2) 現代日本における政治・経済の諸課題の探究
- B グローバル化する国際社会の諸課題
 - (1) 現代の国際政治・経済
 - (2) グローバル化する国際社会の諸課題の探究

数学：数学 I

単元名
三角比

内容のまとめり
図形と計量

1 単元の目標

- (1) 三角比についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、三角比を用いて事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。
- (2) 三角比を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、三角比の表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付ける。
- (3) 三角比について、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付ける。

- ・ 数学科の目標を元に扱う単元名を加え、文末を「～を身に付ける」として示す。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 鋭角の三角比の意味と相互関係について理解している。 ((2) ア(ア)) ② 三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比を求める方法を理解している。 ((2) ア(イ)) ③ 正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解し、三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。 ((2) ア(ウ))	① 図形の構成要素間を用いて三角比を表現するとともに、定理や公式として導くことができる。 ((2) イ(ア)) ② 図形の構成要素間に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 ((2) イ(イ))	① 三角比やそれに関わる定理・公式のよさを認識し、事象の考察や問題の解決に活用しようとしている。 ② 三角比やそれに関わる定理や公式を導くことやそれらを活用した問題解決において、粘り強く考え、その過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとしている。

- ・ 「内容のまとめり」ごとの評価規準の考え方を踏まえて作成。
- ・ [知識・技能] は、[知識及び技能] の該当指導事項の文末を「～している」「～することができる」として作成。
- ・ [思考・判断・表現] は、[思考力、判断力、表現力等] の該当指導事項の文末を「～することができる」として作成。
- ・ [主体的に学習に取り組む態度] については、当該単元で育成をめざす「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の指導事項を踏まえ、その文末を「～しようとしている」として作成する。

3 指導と評価の計画 (全 22 単位時間想定)

本単元「図形と計量」を、四つの小単元と単元のまとめで構成し、それぞれの授業時間数を次のように定めた。

小単元等	授業時間
1 鋭角の三角比	4 時間
2 三角比の相互関係	3 時間
3 三角比の拡張	5 時間
4 三角形への応用	9 時間
単元のまとめ	1 時間
	22 時間

各授業時間の指導のねらい、生徒の学習活動及び重点、評価方法等は次の表のとおりである。

時	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	○ 日常生活や社会の事象を考察することを通して、問題の解決に必要な直角三角形を見だし、二つの辺の比の値に着目して、三角比の一つ（例えば正接）の意味を理解できるようにする。	[知識・技能] ①	行動観察
2	○ ある二つの辺の比に着目することで問題を解決した過程を振り返ることを通して、他の二つの辺の比の値に着目し、他の三角比（例えば正弦と余弦）の意味を理解できるようにする。	[知識・技能] ①	行動観察
3	○ 直角三角形の辺の長さや角度について考察することを通して、三角比を用いて角の大きさや辺の長さを求めることができるようにする。	[知識・技能] ①	行動観察
④	○ 日常生活や社会の事象を考察することを通して、問題の解決に必要な直角三角形を表現し、三角比を用いて処理することができるようにする。 ○ 小単元1の学習を振り返り、振り返りシートに記述することを通して、その後の学習を見通すことができるようにする。	[知識・技能] ① [主体的に学習に取り組む態度] ①②	小テスト 振り返りシート
5	○ 三角比の表を考察することを通して、角度 A の三角比と $(90^\circ - A)$ の三角比の関係を見いだすことができるようにする。	[知識・技能] ①	行動観察
6	○ 一つの三角比の値から他の三角比の値を求めることを通して、三角比の相互関係を見だし、その公式を導けるようにする。	[思考・判断・表現] ①	行動観察
⑦	○ 三角比の相互関係を利用して、一つの三角比の値から他の三角比の値を求めることができる。 ○ 小単元2の学習を振り返り、振り返りシートに記述することを通して、その後の学習を見通すことができるようにする。	[知識・技能] ① [主体的に学習に取り組む態度] ①②	小テスト 振り返りシート
8	○ これまで鋭角の三角比について考えてきたことを振り返り、鈍角の三角比について考察することを通して、鈍角の三角比の定義や、三角比を鈍角まで拡張する意義を理解できるようにする。	[知識・技能] ②	行動観察
9	○ 鈍角の三角比の定義を単位円に適用することを通して、 0° 、 90° 、 180° の三角比の値を求めたり、 $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ の正弦・余弦の値から角の大きさを求めたりできるようにする。	[知識・技能] ②	行動観察
⑩	○ 単位円を利用して $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ の正接の値から角の大きさを求めることができるようにする。	[知識・技能] ②	小テスト
11	○ 鋭角の三角比において成り立っていた相互関係が鈍角の三角比においても成り立つか考察することを通して、三角比の相互関係について理解したり、一つの三角比の値から他の三角比の値を求めたりできるようにする。	[知識・技能] ②	行動観察
⑪	○ 鋭角の三角比において角度 A の三角比と角度 $(90^\circ - A)$ の三角比に関係があったことを振り返ることを通して、鈍角まで拡張すると角度 A の三角比と角度 $(180^\circ - A)$ の三角比に関係があることを見だし、その関係を導くことができるようにする。 ○ 小単元3の学習を振り返り、振り返りシートに記述することを通して、その後の学習を見通すことができるようにする。	[思考・判断・表現] ① [主体的に学習に取り組む態度] ①②	行動観察 振り返りシート
13	○ 三角比を用いて三角形の辺や角の間に成り立つ関係を考察することを通して、三角形における三つの角と正弦の値との関係に着目し、正弦定理を導くことができるようにする。	[思考・判断・表現] ①	行動観察
14	○ 三角形の決定条件から1辺と2角が分かっている三角形はただ一つに決まることを振り返り、正弦定理を利用して他の辺や外接円の半径を求められるようにする。	[知識・技能] ③	行動観察

15	○ 三角形の決定条件から2辺とその間の角が分かっている三角形はただ一つに決まることを振り返り、もう一つの辺を求めることを通して、余弦定理を導くことができるようにする。	[思考・判断・表現] ①	行動観察
16	○ 三角形の決定条件から3辺が分かっている三角形はただ一つに決まることを振り返り、一つの角を求めることを通して、余弦定理を変形した式を導き、利用できるようにする。	[思考・判断・表現] ①	行動観察
17	○ 正弦定理や余弦定理を利用して、三角形の辺の長さや角の大きさをすべて決定できるようにする。	[知識・技能] ③	行動観察
18	○ 余弦定理を利用して辺の長さを求めることを振り返り、決定条件を満たさない三角形について考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度を養う。	[思考・判断・表現] ② [主体的に学習に取り組む態度] ②	行動観察、ノート 行動観察、ノート
19	○ 正弦定理や余弦定理を利用して三角形の辺の長さや角の大きさを求めてきたことを振り返り、まだ考察していない量として面積に着目し、三角形の面積の公式を導くことができるようにする。	[知識・技能] ③	行動観察
20	○ 日常生活や社会の事象の中でも空間に関わる事象を考察することを通して、問題の解決に必要な三角形を見だし、三角比や正弦定理、余弦定理を活用して問題を解決できるようにする。	[思考・判断・表現] ② [主体的に学習に取り組む態度] ①	行動観察 ノート
21	○ 空間図形の考察に三角比や正弦定理、余弦定理を活用して問題を解決できるようにする。 ○ 小単元4までの学習を振り返って、振り返りシートに分かったことや疑問、問題の解決に有効であった方法などを記述することを通して、学習の成果を実感できるようにする。	[思考・判断・表現] ② [主体的に学習に取り組む態度] ①②	小テスト 振り返りシート
22	○ 単元全体の学習内容についてのテストに取り組み、単元で学習したことがどの程度身に付いているかを自己評価することができるようにする。	[知識・技能] ①~③ [思考・判断・表現] ①②	単元テスト 単元テスト

※ 第4、7、10、12、18、21、22時は「評定に用いる評価」を行う時間として設定。

・ 各観点の実現状況を適切に捉えられる場面及び評価方法を精選する。

4 各観点における評価方法

○ 本事例における評価方法について

・ 行動観察

授業中に机間指導等を通じて捉えた生徒の学習への取組の様子、発言やつぶやきの内容、ノートの記述内容などに基づいて評価する。

・ ノート

授業後に生徒のノートやワークシート、レポート等を回収し、その記述の内容に基づいて評価する。

・ 小テスト

授業中に5～10分程度の小テストを実施して回収し、その結果に基づいて評価する。

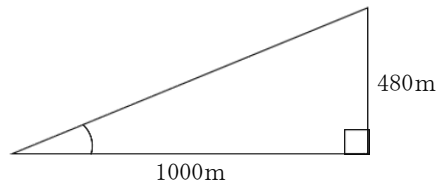
(1) [知識・技能] ①における評価方法

小単元1「鋭角の三角比」においては、単元の評価規準(知①)のうち「鋭角の三角比の意味について理解している」ことについて、次のような評価の方法が考えられる。

ア 第3時まで、直角三角形の辺と角の大きさの関係として三角比を導入し、三角比の意味を知るとともに、三角比やその表を用いて角の大きさや辺の長さを求めることができるようにする場面を設ける。

イ 第4時に、日常生活や社会の事象を考察することを通して、問題の解決に必要な直角三角形を見だし、三角比を用いて処理することを扱い、授業の最後に、次の問題で小テストを行う。

世界で最も急な坂を走る鉄道はスイスの登山鉄道で、水平距離 1000m に対して、高さは約 480m 高くなるといふ。Yさんは、この坂の角度がおよそ何度かを調べるため、下のような図をかいて、角 θ の大きさを次のようにして求めた。



Yさんの考え

図の直角三角形において、 $\text{①} = \frac{480}{1000} = 0.48$ なので、 θ の大きさは、三角比の表を用いておよそ ② 度である。

次の問いに答えなさい。

- (1) 下のアからカのうち、 ① にあてはまる最も適切なものはどれか。その記号を書きなさい。

ア $\sin\theta$ イ $\cos\theta$ ウ $\tan\theta$ エ $\frac{1}{\sin\theta}$ オ $\frac{1}{\cos\theta}$ カ $\frac{1}{\tan\theta}$

- (2) ② にあてはまる θ の大きさに最も近い整数値を、三角比の表を用いて求め、その値を書きなさい。

- (3) スイスの登山鉄道の実際の水平距離は1000mより長い。それでも $\frac{480}{1000}$ という数値を使って角 θ の大きさを求めてよいのはなぜだろうか。理由を簡潔に説明しなさい。

〈評価例〉

「おおむね満足できる」状況 (B)

鋭角の三角比の意味を理解している。

【第4時の小テストにおける生徒Mの記述の一部】

- (1) ウ
 (2) 26°
 (3) 辺の長さの比は三角形の大きさに関わらず一定である

(1)が正答であることから、鋭角の三角比の定義を理解できていると評価でき、(2)も正答であることから、三角比の値から角度を求めることができているかを評価できる。(3)についても正答であるが、さらに「一つの鋭角が一定である直角三角形はすべて相似であること」などが付け加わることでより理解しているといえる。

このことから、評価規準を満たしていると判断し、「おおむね満足できる状況 (B)」と評価した。

(2) [思考・判断・表現] ①における評価方法

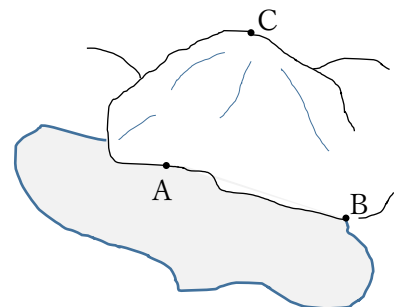
小単元4「三角形への応用」の終末部分(第20、21時)においては、単元の評価規準「図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。」(思②)について、次のような評価の方法が考えられる。

ア 第20時で、例えば、直接測定することの難しい滝の落差について、滝の落口の2地点からそれぞれ見上げた角度を測ることなどして求める問題を取り上げるなど、日常生活や社会の事象の中でも空間に関わる事象において問題の解決に必要な三角形を見だし、正弦定理を活用して問題を解決する方法について理解できるよう指導する。

イ 上記アの指導を基に、第21時に次の問題で小テストを実施する。

右の図の2地点A、Bは同じ標高である。
 いま、山頂Cと地点Aとの標高差を求めたい。
 次の問いに答えなさい。

- (1) 標高差を求めるためには、どんな角度や長さを調べておく必要があるかを答えなさい。
 (2) (1)であげた角度や長さを各自設定し、そのときの標高差を求めなさい。



〈評価例〉

「おおむね満足できる」状況（B）

図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。

【第21時の小テストにおける生徒Mの記述の一部】

- (1) 2点A、B間の直線の距離、地点Aから地点Cを見上げた角、 $\angle ABC$ 、 $\angle BAC$
(2) $AB=100\text{m}$ 、地点Aから地点Cを見上げた角は25度、 $\angle ABC=70^\circ$ 、 $\angle BAC=50^\circ$ とする。地点Cから下ろした垂線の足をHとし、求める標高差AHを x とするとき、直角三角形ABHにおいて三角比を用いて
 $AC=x \sin 25^\circ \doteq x \times 0.4226 = 0.4226x \text{ (m)}$
また、正弦定理より、
$$\frac{0.4226x}{\sin 70^\circ} = \frac{100}{\sin(180^\circ - (70^\circ + 50^\circ))}$$
よって、 $x \doteq 256.8 \text{ (m)}$

(1)が正答であることから、標高差を求めるにあたって必要な三角形を見だし、調べるべき角度や長さに着目できていると評価できる。

また、(2)においても一応の正答ではあるものの三角比の表を用いて求めていることから、(1)において調べるべき角度や長さを計算しやすい角度や長さとなるように設定できれば、より理解しているといえる。

このことから、評価規準を満たしていると判断し、「おおむね満足できる状況（B）」と評価した。

(3) [主体的に学習に取り組む態度] ①における評価方法

小単元4「三角形への応用」においては、単元の評価規準「三角比やそれに関わる定理や公式を導くことやそれらを活用した問題解決において、粘り強く考え、その過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとしている。」(態②)について、例えば、次のような評価の方法が考えられる。ただし、以下の評価事例は、二次関数が既習であることを前提としている。

ア 第13～17時では、正弦定理と余弦定理について、三角形の決定条件と関連付けて理解しておくことが大切であることを指導する。

イ 第18時では、次の問題を取り上げて数学的活動に取り組む機会を設ける。

$\triangle ABC$ において、 $b=\sqrt{7}$ 、 $c=3$ 、 $B=60^\circ$ のとき、 a の値が2通りになることを確かめよう。
なぜ a の値が1通りに決まらないのかを、問題の条件から考えてみよう。
また、 $c=3$ 、 $B=60^\circ$ が変わらなければ、 b がどんな値であっても、 a は2通りになるのだろうか。

ウ ノートを確認して、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしているかを評価する。

なお、ノート（ワークシート）への振り返りの記述に関しては、単一の授業における記述だけを記録に残すことも適切ではない。したがって、本事例に限らず、授業で数学的活動を実践する際には常にノート（ワークシート）への振り返りの記述を行うようにしておくことが考えられる。

〈評価例〉

「おおむね満足できる」状況（B）

三角比やそれに関わる定理や公式を導くことやそれらを活用した問題解決において、粘り強く考え、その過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとしている。

【生徒Mの振り返りの記述の一部】

(第13～17時を終えた後の各時の記録)

～ (省略) ～

(第18時を終えた後の記録)

b がどんな値であっても a は2通りになるかどうかは最初どう調べていいか全然わからなかった。だけど、途中で周囲の人と共有して、 $b = \sqrt{7}$ のときに a を求めたことをもとにすればよいことや、図をかいてイメージしてみるとよいことなどに気づき、最後には、 a の2次方程式で調べる意味や、 $3\cos 60^\circ$ とACの長さを比較する意図が分かった。難しかったが、これからも具体的に辺の長さを求めた場合を振り返ったり、周囲やクラスの人と協力したりすることで考えるきっかけを得ていきたい。

アにおいて、各時で記録していた振り返りでは、正弦定理と余弦定理について、三角形の決定条件と関連付けて理解している記述が見られた。

また、イにおいても振り返りの記録から、わからなかったことを周囲の人と共有して問題解決の過程でこれまでに学習してきた内容に立ち返り学習しようとした姿が見られ、また粘り強く取り組み続ける姿があることから、評価規準を満たしていると判断し、「おおむね満足できる状況(B)」と評価した。

5 観点別学習状況の評価の総括 ※各授業時間の内、記録を要する学習活動の時間のみ記載

時	学習活動	知	思	態
4	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会の事象を考察することを通して、問題の解決に必要な直角三角形を表現し、三角比を用いて処理することができるようにする。 小単元1の学習を振り返り、振り返りシートに記述することを通して、その後の学習を見通すことができるようにする。 	B		A
7	<ul style="list-style-type: none"> 三角比の相互関係を利用して、一つの三角比の値から他の三角比の値を求めることができる。 小単元2の学習を振り返り、振り返りシートに記述することを通して、その後の学習を見通すことができるようにする。 	B		B
10	<ul style="list-style-type: none"> 単位円を利用して$0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$の正接の値から角の大きさを求めることができるようにする。 	A		
12	<ul style="list-style-type: none"> 鋭角の三角比において角度Aの三角比と角度$(90^\circ - A)$の三角比に関係があったことを振り返ることを通して、鈍角まで拡張すると角度Aの三角比と角度$(180^\circ - A)$の三角比に関係があることを見だし、その関係を導くことができるようにする。 小単元3の学習を振り返り、振り返りシートに記述することを通して、その後の学習を見通すことができるようにする。 		B	B
18	<ul style="list-style-type: none"> 余弦定理を利用して辺の長さを求めることを振り返り、決定条件を満たさない三角形について考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度を養う。 		B	B
21	<ul style="list-style-type: none"> 空間図形の考察に三角比や正弦定理、余弦定理を活用して問題を解決できるようにする。 小単元4までの学習を振り返って、振り返りシートに分かったことや疑問、問題の解決に有効であった方法などを記述することを通して、学習の成果を実感できるようにする。 		B	B
22	<ul style="list-style-type: none"> 単元全体の学習内容についてのテストに取り組み、単元で学習したことがどの程度身に付いているかを自己評価することができるようにする。 	A	B	
単元の総括		A	B	B

単元における総括の方法として、例えば「数値で表して合計の平均点を用いる方法」を取り入れた場合として、次の基準を定めて示す。

<基準> (例)

各観点の評価の結果を、 $A = 3$ 、 $B = 2$ 、 $C = 1$ として換算し、観点ごとに単元全体の合計の平均点を求める。

なお、求めた平均点と単元の総括としての評価の関係を次のとおりとする。

2.5以上	3以下	…	A
1.5以上	2.5未満	…	B
1以上	1.5未満	…	C

このことを用いて考えた場合、今回の単元における観点別学習状況の評価の総括としては、次のように計算することになる。

- ・ 「知識・技能」は、結果が「BBAA」であるから、 $(2+2+3+3) \div 4 = 2.5$ となり、基準に照らし「**A**」とした。
- ・ 「思考・判断・表現」は、結果が「BBBB」であるから、 $(2+2+2+2) \div 4 = 2$ となり、基準に照らし「**B**」とした。
- ・ 「主体的に学習に取り組む態度」は、結果が「ABBB」であるから、 $(3+2+2+2+2) \div 5 = 2.2$ となり、基準に照らし「**B**」とした。

高等学校数学科の「内容のまとめ」

高等学校数学科における「内容のまとめ」は、以下のようにになっている。

第1 数学Ⅰ

- (1) 数と式
- (2) 図形と計量
- (3) 二次関数
- (4) データの分析

第2 数学Ⅱ

- (1) いろいろな式
- (2) 図形と方程式
- (3) 指数関数・対数関数
- (4) 三角関数
- (5) 微分・積分の考え

第3 数学Ⅲ

- (1) 極限
- (2) 微分法
- (3) 積分法

第4 数学A

- (1) 図形の性質
- (2) 場合の数と確率
- (3) 数学と人間の活動

第5 数学B

- (1) 数列
- (2) 統計的な推測
- (3) 数学と社会生活

第6 数学C

- (1) ベクトル
- (2) 平面上の曲線と複素数平面
- (3) 数学的な表現の工夫

理科：化学基礎

単元名

(7) 物質質量と化学反応式

内容のまとめり

(3) 「物質の変化とその利用」

《授業例》

1 単元の目標

- (1) 物質質量と化学変化について、物質質量、化学反応式を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。(知識及び技能)
- (2) 物質質量と化学反応式について、観察、実験などを通して探究し、物質の変化における規則性や関係性を見いだして表現すること。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 物質質量と化学反応式に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養うこと。(学びに向かう力、人間性等)

- ・ 「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」については、学習指導要領の「2 内容」における「大項目（内容のまとめり）」の指導事項に示されている「次のこと」を「小項目」に代える。
- ・ 「学びに向かう力、人間性等」については、「2 内容」に記載がないことから、科目の目標の(3)を適用する。
- ・ 「生物基礎」及び「生物」の目標(3)における、「生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度」及び、「地学基礎」及び「地学」の目標(3)における「自然環境の保全に寄与する態度」については、単元の目標として記載するが、観点別学習状況の評価にはなじまず、個人内評価等を通じて見取る部分であることに留意する必要がある。

2 本単元における言語活動

実験で得られた結果を基にグラフを作成し、グラフ等から分かることを自分なりに考察してワークシートに記述する。また、班ごとに、作成したグラフを評価し合うとともに、正確なデータを得るためには実験で何が足りなかったか、実験方法をどのように改善すればよいかなどについて話し合う活動を行う。

(関連：「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」)

- ・ 自分の考えを他者に的確に分かりやすく表現し伝える力を育成するとともに、話し合い活動を通して自分の考えや集団の考えを深め、発展させる。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 物質質量と化学反応式について、物質質量、化学反応式の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、 ② 科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	① 物質質量と化学反応式について、観察、実験などを通して探究し、物質の変化における規則性や関係性を見いだして表現している。	① 物質質量と化学反応式に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

- ・ 「内容のまとめり」ごとの評価規準の考え方等を踏まえ、単元の目標を基に、各学校の生徒等の実態に応じて作成する。
- ・ 単元の目標の文末表現を「～している」として作成する。
- ・ 「主体的に学習に取り組む態度」については、理科の「評価の観点及びその趣旨」における「主体的に学習に取り組む態度」の中の「自然の事物・現象」を「中項目（単元）」に代えて作成する。
- ・ 指導と評価の一体化に向けて、作成された評価規準を各学校の教育課程における授業（学習指導）の中で生かしていくことで、「学習評価」の充実を図り、教育活動の質の向上を図る。

4 指導と評価の計画（全 10 単位時間）

時間	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	・ 同数のゴマの質量と大豆の質量との関係から、 ^{12}C を基準とする相対質量及び原子量について説明する。	思考・判断・表現①	[行動観察]
2	・ いろいろな分子について、分子量が構成原子の原子量の総和で表されることを理解する。 ・ 組成式で表される物質について、式量が構成原子の原子量の総和で表されることを理解する。	知識・技能①	[行動観察]
③	・ 多量の小さな粒（米粒や小豆など）を数えることを行い、より効率的に数える方法を理解する。 ・ 粒子の数に基づく量の表し方である物質量を理解する。	知識・技能①	[記述分析]
4	・ 具体的な物質を用いて、物質質量と粒子数、質量、気体の体積との関係を説明する。	思考・判断・表現①	[行動観察]
5	・ 溶液の体積と溶質の物質質量との関係を表すモル濃度を理解する。 ・ 水溶液に含まれる溶質の質量を求め、質量パーセント濃度とモル濃度の違いを理解する。	知識・技能①	[行動観察] [記述分析]
⑥	・ 決められた濃度の溶液を正しく調製する技能を身に付ける。	知識・技能②	[行動観察] [記述分析]
7	・ 化学変化の前後で原子の数や種類が変わらないことを基に、粒子のモデルを用いて化学反応式の係数を決定できることを説明する。	思考・判断・表現①	[行動観察]
⑧	・ 化学反応式の係数の比が、何に関係しているのかを予想する。 ・ 化学反応式の係数の比が、物質質量の比と関係していることを見いだして表現する。	思考・判断・表現①	[記述分析]
⑨	・ 過不足のある化学反応式について、これまで学習した化学反応式の量的関係の知識を活用して、実験を通して課題を解決しようとする。	主体的に学習に取り組む態度①	[行動観察] [記述分析]
⑩	・ 物質質量と化学反応式に関する学習を振り返り、それらの知識を概念的に理解しているかどうかを確認する。	知識・技能①	[記述分析]

※ 第3、6、8、9、10時は「評定に用いる評価」を行う時間として設定

- ・ 「評定に用いる評価」については、場面を精選するとともに、単元や題材の学習活動の特質や評価の観点、評価規準に応じて適切な評価方法を選択することが重要となる。
- ・ 理科で育成をめざす資質・能力を育むため、単元ごとに観察、実験を適切に設定するとともに、探究の過程を踏まえた学習活動を行うようにする。その際、学習内容の特質に応じて、探究の手法を習得させるとともに、報告書の作成や発表の機会の充実が図られるよう年間指導計画を立てる。
- ・ 観察、実験では、学習内容の特質に応じて多面的に学習状況を見取ることが考えられるが、年間指導計画に基づき、観察、実験における[行動観察]やワークシートの[記述分析]を通して、それぞれの単元や題材において見取る観点の焦点化を図ることが必要です。

5 各観点における評価方法

○ 本事例における評価方法について

知識・技能①	知識・技能②	思考・判断・表現①	主体的に学習に取り組む態度①
[記述分析] 粒子の数に基づく量の表し方である「物質質量」について理解しているかを、ワークシートにおける記述分析によって評価する。	[行動観察][記述分析] 適切な実験器具を用い、適切な手順で決められた濃度の溶液を正しく調製する技能を身に付けているかを、実験における行動観察やワークシートの記述分析によって評価する。	[記述分析] 実験の結果を考察して、化学反応式の係数の比は物質質量の比に関係していることを見いだして表現しているかを、ワークシートの記述分析によって評価する。	[行動観察][記述分析] 濃度不明の塩酸に炭酸カルシウムを加えていく実験を行い、試行錯誤しながら塩酸の濃度を求めようとしているかを、実験における行動観察やワークシートの記述分析によって評価する。

(1) 知識・技能①における評価方法

多量の小さな粒を数えることを通して、物質量と粒子数との関係について理解しているかを評価する。

課題：多量の小さな粒を効率的に数えることを通して、物質量と粒子数との関係について説明しよう。

〈評価例〉

「おおむね満足できる」状況（B）

物質量と粒子数との関係について記述している。また、粒子の数に基づく量の表し方である物質量について理解している。

【生徒の記述】

原子や分子の粒は、 6×10^{23} 個で1つのまとまりとして、これを1 mol という。これが物質量である。

原子など多量の小さな粒を1粒ずつ数えることは困難であるため、 6×10^{23} 個を1つのまとまりとして数え、そのまとまりが物質量であることが記述されている。この記述から、物質量の概念について理解していることが確認できることから、「知識・技能」の観点で「おおむね満足できる」状況（B）と判断できる。

【「努力を要する」状況と評価した生徒に対する指導の手立て】

鉛筆の本数を数える際の「ダース」や米を量る際の「カップ」など、身の回りの生活に結びついている事例に気付かせ、粒子の数を一定のまとまりで考える方法を実感できるように指導することにより、物質量の理解につなげる。

(2) 知識・技能②における評価方法

適切な実験器具を用い、適切な手順で決められた濃度の溶液を正しく調製する技能を身に付けているかを評価する。

課題：0.1 mol/L 塩化ナトリウム水溶液 100 mL を調製するとともに、その方法を書きなさい。

〈評価例〉

「おおむね満足できる」状況（B）

適切な溶質の質量を求めることができるとともに、適切な実験器具を用い、適切な操作手順で溶液を調製することができる。また、その方法について記述している。

【生徒の記述】

ビーカーに 0.585 g の食塩を量りとり、水を入れて溶かす。この溶液をメスフラスコに入れ、更に水を入れて標線に合わせる。メスフラスコのふたを閉め、振って中の溶液を均等にする。

実験における行動観察から、0.1 mol/L 塩化ナトリウム水溶液 100 mL を正しく調製している状況が見られる。また、その方法が記述されている。このことから、「知識・技能」の観点で「おおむね満足できる」状況（B）と判断できる。

【「努力を要する」状況と評価した生徒に対する指導の手立て】

溶液を調製する方法を確認しながら個別に支援する。更に、その操作をフローチャートにするなど生徒の思考を整理する場面を設定することが考えられる。

(3) 思考・判断・表現①における評価方法

炭酸水素ナトリウムの熱分解の実験を行い、実験の結果を基に化学反応式の係数の比が物質量の比に関係していることを見いだして表現しているかを評価する。その際、中学校の学習を振り返り、予想させた上で実験を行うことが大切である。

課題：実験の結果から、化学反応式の係数の比は何に関係していると考えられるか。

〈評価例〉

「おおむね満足できる」状況（B）

反応した炭酸水素ナトリウムと生成した炭酸ナトリウムの物質量を求め、物質量の比と化学反応式の係数の比を比較し、関係性を見いだして表現している。

【生徒の記述】

実験結果から、化学反応式の係数の比は反応した炭酸水素ナトリウムと炭酸ナトリウムの物質量の比と関係していることが分かった。

根拠が具体的ではなく抽象的ではあるが、実験で使用したワークシートに、化学反応式の係数の比は物質量の比に関係していることが記述されている。このことから、「思考・判断・表現」の観点で「おおむね満足できる」状況（B）と判断できる。

【「努力を要する」状況と評価した生徒に対する指導の手立て】

下のようなワークシートを提示して、根拠に基づいて説明できるように個別に支援する。

〈ワークシートの例〉

下線部の空欄を埋めながら、考察を書いてみましょう。

化学反応式の係数の比は、_____と一致していると考えた。

その理由（根拠）は、

化学反応式は_____と表され、

反応した NaHCO_3 は _____ g、生成した Na_2CO_3 は _____ g、物質量を求めてみると、

NaHCO_3 は _____ mol、 Na_2CO_3 は _____ mol となり、

化学反応式における炭酸水素ナトリウムと炭酸ナトリウムの係数比は、_____ : _____ であり、

実験結果で求めたそれらの物質量の比は _____ : _____ であることから、

化学反応式の係数の比は、_____。

なお、多くの生徒は、質量に着目して「化学反応式の係数の比は質量の比に関係しているのではないかと予想すると考えられるが、実験の結果が予想と異なることから、生徒が興味をもって取り組めるような実験を構成している。

化学反応式の係数の比が、反応物と生成物の質量の比を表しているのではなく、物質量の比を表していることに気付かせ、化学反応の量的関係を物質量で表すことの有用性を感じさせることが大切である。

(4) 主体的に学習に取り組む態度①における評価方法

濃度不明の塩酸に炭酸カルシウムを加えていく実験を行い、試行錯誤しながら、この塩酸の濃度をどのように求めようとしたかを、グラフと振り返りの記述を基に評価する。

なお、グラフについては、正しく記述されているかどうかを見取るのではなく、試行錯誤している状況を見取る。

課題：濃度不明の塩酸 50 mL に炭酸カルシウムを加える実験を行い、グラフの作成を通して、塩酸の濃度を求めよう。

〈評価例〉

「おおむね満足できる」状況（B）

グラフの作成を通して、試行錯誤しながら塩酸の濃度を求めようとしているとともに、学習の前後を振り返って、実験の結果を基に、試行錯誤しながら課題を解決しようとしている。

【生徒の記述】

濃度を求めるために最初は何をすればよいかわからなかった。友達のアドバイスを受けて、炭酸カルシウムの質量を変えて実験を行い、グラフを作成することはできたが、塩酸の濃度を求めることまではできなかった。

実験で使用したワークシートに、「振り返り」として、試行錯誤しながら、炭酸カルシウムの質量を変えて、どのように塩酸の濃度を求めようとしたかが記述されている。このことから、「主体的に学習に取り組む態度」の観点で「おおむね満足できる」状況（B）と判断できる。

【「努力を要する」状況と評価した生徒に対する指導の手立て】

例えば、実験の目的を確認するとともに、実験の一つ一つの操作の意味を考えさせたりすることで思考を整理した上で、実験のプロセスを具体的に振り返り自己の変容を認識させることが考えられる。

〈参考〉

「1.0 mol/L の塩酸 50 mL に炭酸カルシウムを加えていくと、どのような現象が起こるかグラフを作成して説明しよう」という課題を設定して、主体的に学習に取り組む態度を見取ることも考えられる

〈実験前に使用するワークシート〉

化学基礎 化学反応式の量的関係

今日は、次の実験を行い、考えていきます。実験操作は以下の通りです。

- 1.0 mol/L の塩酸を 50 mL はかり取り、コニカルビーカーに入れる。
- 葉包紙(秤量皿)に炭酸カルシウムをはかり取る。(A)
- 電子天秤で反応前の(1)の質量をはかる。(B)
- 1.0 mol/L の塩酸 50 mL に、(2)ではかり取った炭酸カルシウムを少しずつ加える。
- コニカルビーカーを振って泡が出なくなったら、反応後の質量をはかる。(C)
- (A+B)-C を発生した二酸化炭素の質量として、実験結果を下の表にまとめる。

①、②からグラフを予想してみよう

実験操作(2)においてはかり取った炭酸カルシウムが ① 1.00 g、② 2.00 g のときの実験結果は以下の通りであった。CaCO₂ = 100g/mol CO₂ = 44g/mol として、物質量を計算してみましょう。

操作	①	②
炭酸カルシウム 質量 g	1.00	2.00
炭酸カルシウム 物質量 mol		
二酸化炭素 質量 g	0.44	0.88
二酸化炭素 物質量 mol		

●グラフがなぜぞよくなるか、根拠を基に説明してみましょう。(実験前)

〈実験後に使用するワークシート〉

課題：1.0 mol/L の塩酸 50 mL に炭酸カルシウムを加えていくと、どんな現象が起こるかグラフを作成して説明しよう。

●【方法】炭酸カルシウム 5.00g までの範囲で発生する二酸化炭素を調べよう。

●結果

操作	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
炭酸カルシウム A g	1.00	2.00								
塩酸 B g										
実験前 A+B g										
実験後 C g										
(A+B)-C g										
炭酸カルシウム mol										
二酸化炭素 mol										

●グラフの作成

●操作⑩まで行い気付いたこと(実験後)

●考察

●振り返り(学習の前後を振り返って、実験の結果を基にどのように課題を解決しようとしたか記述しなさい。)

実験の前後の振り返りを通して、自らの変容を捉え、自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価する。

学習したことを生かして科学的に探究し、課題に向き合っているかを見取る。

6 観点別学習状況の評価の総括

時	学習活動	知	思	態
1	・ ^{12}C を基準とする相対質量及び原子量について説明する。			
2	・ 分子量や式量が構成原子の原子量の総和で表されることを理解する。			
3	・ 実験を通して、粒子の数に基づく量の表し方である物質量の概念を理解する。	B		
4	・ 具体的な物質を用いて、物質量と粒子数、質量、気体の体積との関係を説明する。			
5	・ 質量パーセント濃度とモル濃度の違いを理解する。			
6	・ 決められた濃度の溶液を調製する技能を身に付ける。	A		
7	・ 化学反応の前後で原子の数や種類が変わらないことを基に、粒子のモデルを用いて化学反応式の係数を決定できることを説明する。			
8	・ 実験を行い、化学反応式の係数の比が、物質量の比と関係していることを見いだして表現する。		A	
9	・ 過不足ある化学反応について、化学反応式の量的関係の知識を活用して、実験を通して課題を解決する。			A
10	・ 物質量と化学反応式に関する学習を振り返り、それらの知識を概念的に理解しているかどうかを確認する。	A		
ペーパーテスト（定期考査等）		A	A	
単元の総括		A	A	A

- ・ 「知識・技能」は、第3時、第10時とペーパーテストで「知識」を評価し、第6時で「技能」を評価した。その結果、「BAAA」となることから、総括して「A」とした。
- ・ 「思考・判断・表現」は、第8時で評価「A」、ペーパーテストで「A」であることから、総括して「A」とした。
- ・ 「主体的に学習に取り組む態度」は、第9時で「A」と評価し、単元を通しての総括として「A」とした。

高等学校理科の「内容のまとめり」

高等学校理科における「内容のまとめり」は、以下のようになっている。

第1 科学と人間生活

- (1) 科学技術の発展
- (2) 人間生活の中の科学
- (3) これからの科学と人間生活

第2 物理基礎

- (1) 物体の運動とエネルギー
- (2) 様々な物理現象とエネルギーの利用

第3 物理

- (1) 様々な運動
- (2) 波
- (3) 電気と磁気
- (4) 原子

第4 化学基礎

- (1) 化学と人間生活
- (2) 物質の構成
- (3) 物質の変化とその利用

第5 化学

- (1) 物質の状態と平衡
- (2) 物質の変化と平衡
- (3) 無機物質の性質
- (4) 有機化合物の性質
- (5) 化学が果たす役割

第6 生物基礎

- (1) 生物の特徴
- (2) ヒトの体の調節
- (3) 生物の多様性と生態系

第7 生物

- (1) 生物の進化
- (2) 生命現象と物質
- (3) 遺伝情報の発現と発生
- (4) 生物の環境応答
- (5) 生態と環境

第8 地学基礎

- (1) 地球のすがた
- (2) 変動する地球

第9 地学

- (1) 地球の概観
- (2) 地球の活動と歴史
- (3) 地球の大気と海洋
- (4) 宇宙の構造

保健体育科：体育

单元名
球技：ネット型（バドミントン）
入学年次の次の年次

内容のまとめり
入学年次の次の年次以降「E 球技」

1 単元の目標 ※文末の表現を「～できる」として示す。

- (1) 次の運動について、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、(課題解決の方法)、競技会の仕方(など)を理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。
イ ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができるようにする。 **【知識及び技能】**
- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができるようにする。 **【思考力、判断力、表現力等】**
- (3) 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。 **【学びに向かう力、人間性等】**

2 「単元の評価基準」

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 ① 球技では、各型の各種目の局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法があることについて、言ったり書き出したりしている。 ② 球技の型や種目によって必要な体力要素があり、その型や種目の技能に関連させながら体力を高めることができることについて、学習した具体例を挙げている。 ③ 競技会で、ゲームのルール、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等の調整の仕方などがあることについて、学習した具体例を挙げている。	○技能 ① サービスでは、ボールに変化をつけて打つことができる。 ② ボール(シャトル)をコントロールして、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むことができる。 ③ ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができる。	① 選択した運動について、チームや自己の動きを分析して、良い点や修正点を指摘している。 ② 課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見している。 ③ 練習やゲームを行う場面で、チームや自己の活動を振り返り、よりよいマナーや行為について提案している。	① 球技の学習に主体的に取り組もうとしている。 ② 作戦などを話し合う場面で、合意形成に貢献しようとしている。 ③ 仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。

▶学習指導要領に記載してある例示の文末を変換して作成する。
知識「～について、言ったり書きだしたりしている。」：各学校、教員の指導によって大きな相違がないものに用いることとする。
「～について、学習した具体例を挙げている。」：学校や生徒の実態に合わせて、内容に相違が予想されるものに用いることとする。
技能 「～ができる」 **思考・判断・表現** 「～している」
主体的に学習に取り組む態度 「～しようとしている」：情意面の例示に用いることとする。
「～を確保している」：健康・安全の観点について用いることとする。

3 指導と評価の計画を作成

時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
学習の流れ	0	健康観察・本時のねらいの確認・準備運動															
	10	オリエンテーション ラケット・シャトル慣れ	シャトル操作			シャトル操作の反復練習											
	20		クリアードロップ ロブ スマッシュ サービス	ダブルス ラリー 空間を作り出す動き	簡易ゲーム 空間を作り出す動き	ダブルス ラリー 連動した動き	簡易ゲーム 連動した動き	ダブルス リーグ戦					グループ 対抗戦 (団体戦)				
	30		動作解析			課題確認 解決方法の提案・練習		課題確認 解決方法の提案・練習									
	40		模範動画視聴 自らの映像撮影														
50	整理運動・学習の振り返り・次時の確認																
評価機会	時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
	知	②			(①)		(①)			①			③			総合的な評価	
	技			(②)				(①)			(③)	①	②	③			
	思				①				②			③					
態		①							③				②				

※①、②、③は、単元の評価規準に対応

4 各観点における評価方法

本事例における評価方法について

知識①	技能②	思考・判断・表現②	主体的に学習に取り組む態度②
評価方法：【学習カード】 ○バドミントンの技術や戦術、攻防に重要なポイントや練習方法について理解しているか確認する。	評価方法：【観察】 ○シャトルをコントロールして相手コートに打ち込むことができるか確認する。 ※1 ICT を活用することで、信頼性のある評価となる。	評価方法：【学習カード】 ○簡易ゲームを経て、チームや自己の課題を発見し、解決方法となる練習等を提案できているか確認する。	評価方法：【学習カード】 【観察】 ○仲間を尊重し、相手の感情に配慮した記述ができているか確認する。 ○ペアや自己の課題解決に向けた作戦等を話し合う際に、建設的な話し合いを進めているか確認する。

※2 「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への指導を速やかに且つ継続的に図る。

(1) 知識①における評価方法

学習カードに、バドミントンにおけるシャトル操作（技の行い方）についての設問や、ゲーム中に適切に技能を発揮（空いた場所をめぐる攻防）するための重要なポイントやコツについて、技能と関連させた（具体的な知識）を問う設問を設け、その記述内容を評価材料に用いる。

「 おおむね満足できる 」状況（B）

- ・シャトル操作（技の行い方）の名称やポイント・コツなどの具体的な知識を記述している。

【生徒の記述例】

○相手を前後に動かすようにシャトルを打つ。 ○打つ前に相手陣内の空いた空間を確認する。

相手陣内に空間を作り、学習したシャトル操作（技の行い方）を効果的に発揮するためのポイントが記載してあると判断し、「おおむね満足できる状況（B）」と評価した。

(2) 技能②における評価方法

ネットを挟んでのラリーやゲーム中において、シャトル操作（技の行い方）が、【自動化の段階】・【意図的に調整する段階】・【試行錯誤の段階】のどの段階にあるかを評価する材料として、シャトルを打つ際の一連の動きの速さや、打ったシャトルの強さ、空いた空間をめぐる攻防におけるポイントやコツを実践できているかを分析して評価する。

※ICTを活用し、映像から生徒自身が分析し、自己評価や他者へのアドバイスを行う学習カードを用いてもよい。

「 おおむね満足できる 」状況（B）

- ・意図的にシャトルをネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むことができています。
- ・前後左右にコントロールして打ち分けることや、一連の動きの中で相手側コートの空いた空間を狙って打つことができています。

【生徒の状況例】

○相手側コートの空いた空間に、緩急や高低などの変化をつけて打ちかえすことができています。

学習したシャトル操作（技の行い方）を相手側コートに打ち込めていること、空いた空間をめぐる攻防を意図的に実践できていることが確認できたと判断し、「おおむね満足できる状況（B）」と評価した。

(3) 思考・判断・表現②における評価方法

これまで学習した知識や技能を発揮する場である簡易ゲームにおいて、成果や課題、その理由等の分析から、自己の課題や解決方法を学習カードに記載させる。同様にペアやグループの他者についても、課題等の記述内容を評価材料に用いる。※学習した知識が、ゲーム中の攻防による経験で、新たな気づき（課題）につながっているかを見取る。

「 おおむね満足できる 」状況（B）

- ・自己やペア・グループ内の他者についての課題を発見し、具体的に記述している。

【生徒の記述例】

- 練習では前後左右にシャトルを打ち分けることができるが、ゲーム中に相手のいない、空いた空間に打ち込むことができない。
- （他者について）シャトルを打った後、すぐに空いたスペースを埋める動きがあれば良い。等

学習した事項（空間をめぐる攻防）について、客観的に評価が行えていること、その課題に対する解決策が記載できていると判断し、「おおむね満足できる状況（B）」と評価した。

（4）主体的に学習に取り組む態度②における評価方法

ダブルスのリーグ戦から、次の試合に向けての作戦や課題、課題解決に向けた練習方法等をペアで話し合う機会を設け、その様子を観察し評価する。また、学習カードには互いのプレーの特徴（得意・不得意）を踏まえた作戦を立てさせることで、仲間を尊重し、互いの信頼関係を深めることに繋がっているかを評価する。

「おおむね満足できる」状況（B）

- ・ペアで話し合う場面や学習カードの記述において、相手の感情に配慮しながら建設的な話し合いを進めようとしている様子や記述をしている。

※生徒の状況・記述例

- 対立意見が出た場合でも、相手の感情を理解した発言や提案者の発言に同意を示している様子がみられる。
- 連携ミスが多く負けてしまったので、もっとお互いに声をかけながらプレーしたい。（記述）
- ペアの友人にハイクリアーが短いとアドバイスしてもらったので、練習して少しでも遠くに打てるようになりたい。（記述）

リーグ戦の勝敗を受け入れ、次の試合に向けて互いに気づきを伝え合っていると同時に、仲間を尊重し合意形成に貢献しようとする（参画・共生）記述等が確認できたと判断し、「おおむね満足できる状況（B）」と評価した。

5 観点別学習状況の評価の総括

	時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
学習の流れ	0	健康観察・本時のねらいの確認・準備運動														
	10	オリエンテーション	シャトル操作		シャトル操作の反復練習											
	20		クリアードロップロブスマッシュサービス	ダブルスラリー 空間を作り出す動き	簡易ゲーム 空間を作り出す動き	ダブルスラリー 連動した動き	簡易ゲーム 連動した動き	ダブルスリーグ戦	グループ対抗戦(団体戦)							
	30	ラケット・シャトル慣れ	動作解析		課題確認 解決方法の提案・練習		課題確認 解決方法の提案・練習									
	40	模範動画視聴 自らの映像撮影														
50	整理運動・学習の振り返り・次時の確認															
評価機会	時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	総括
	知	A			(C)		(B)			B			A			B
	技			(C)				(C)			(C)	B	B	C		B
	思				B				B			B				B
態		B							B				A		B	

- ・**知識①**において4～9時間目にかけて、具体的な知識と汎用的な知識を組み合わせで指導し、学習カードに記載させ、9時間目に評価した。
- ・**技能②**は、3・7・10時間目に技の行い方や攻防の際の動きを指導し、一定期間をおいて形成的な評価を行う。「努力を要する状況」と判断された場合に、指導の手立てを検討し、速やかに対処する狙いがあるため()付の表記としている。(例：実際に(C)であったが、後半の評価機会で見られた。)
- ・**知識・技能**はAとCが同一観点に混在するため、「B」に置き換えて集約(※AとCが各一つ→Bが二つ)し、「ABBBBB」となり【数の多いほうの評価とする】という事前の取り決めにより「B」と総括した。
- ・**思考・判断・表現** **主体的に学習に取り組む態度**は、【数の多いほうの評価とする】という事前の取り決めにより「B」と総括した。

高等学校保健体育科の「内容のまとめり」

高等学校保健体育科における「内容のまとめり」は、以下のようになっている。

第1 体育

〔入学年次〕

- A 体づくり運動
- B 器械運動
- C 陸上競技
- D 水泳
- E 球技
- F 武道
- G ダンス
- H 体育理論 (1) スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展

〔入学年次の次の年次以降〕

- A 体づくり運動
- B 器械運動
- C 陸上競技
- D 水泳
- E 球技
- F 武道
- G ダンス
- H 体育理論 (2) 運動やスポーツの効果的な学習の仕方
(3) 豊かなスポーツライフの設計の仕方

第2 保健

- (1) 現代社会と健康
- (2) 安全な社会生活
- (3) 生涯を通じる健康
- (4) 健康を支える環境づくり

芸術：書道 I

単元名

「漢字仮名交じりの書」の創作
～言葉の選定、構想から作品完成まで

内容のまとめ

- ・「A表現」(1)漢字仮名交じりの書及び〔共通事項〕(1)
- ・「B鑑賞」(1)鑑賞及び〔共通事項〕(1)

《授業例》

1 単元の目標

- (1) 「知識及び技能」
 - ・ 用具・用材の特徴と表現効果との関わり、名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解する。 知A(1)イ、ウ
 - ・ 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解する。 知B(1)イ
 - ・ 目的や用途に即した効果的な表現、漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身に付ける。 技A(1)ウ
- (2) 「思考力、判断力、表現力等」
 - ・ 漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫する。
 - ・ 創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。
- (3) 「学びに向かう力、人間性等」
 - ・ 自身の表現の意図に基づく表現、漢字仮名交じりの書の特徴に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。 態表
 - ・ 書のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。 態鑑

- ・ 「知識及び技能」の「知識」については、基本的に指導事項の文末を「理解する」として示し、「技能」については、基本的に指導事項の文末を「身に付ける」として示す。
- ・ 「思考力、判断力、表現力等」の「A 表現」については、基本的に指導事項の文末を「構想し工夫する」として示し、「B 鑑賞」については、基本的に指導事項の文末を「書のよさや美しさを味わって捉える」として示す。
- ・ 「主体的に学習に取り組む態度」については、当該科目の目標を踏まえて、「A 表現」及び「B 鑑賞」の目標をそれぞれ示す。

2 本単元における言語活動

作品を相互鑑賞して、次の構想・工夫につなげていくために相互批評を行う。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
〔共通事項〕 ・用筆・運筆から生みだされる書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。 ・書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。 ・用具・用材の特徴と表現効果との関わり、名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解している。 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。 ・目的や用途に即した効果的な表現、漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身に付けている。	・漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫している。 ・創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。	・自身の表現の意図に基づく表現、漢字仮名交じりの書の特徴に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。 ・書のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。

※ 〔共通事項〕については、参考として示しているが、評価規準として設定する必要はない。

- ・ 「内容のまとめり」ごとの評価規準の考え方等を踏まえて、本単元で扱う学習指導要領の内容に置き換えたり、必要に応じて単元の学習に即した活動や内容を加えたり、内容をまとめたりして作成。
- ・ [知識・技能]の[知識]については、文末を「理解している」として作成。
- ・ [知識・技能]の[技能]については、文末を「身に付けている」として作成。
- ・ [思考・判断・表現]の「A表現」については、文末を「構想し工夫している」として作成。
- ・ [思考・判断・表現]の「B鑑賞」については、文末を「書のよさや美しさを味わって捉えている」として作成。
- ・ [主体的学習に取り組む態度]の「A表現」においては、「幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている」の前に、単元の学習内容に応じて文言を付加して作成。
- ・ [主体的学習に取り組む態度]の「B鑑賞」においては、「書のよさや美しさを感じし」を冒頭に加えて鑑賞活動の過程を明確に示し、「幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている」の前に、単元の学習内容に応じて文言を付加して作成。

4 指導と評価の計画（10時間）

次	学習活動	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
		知	技	思	態表	態鑑
1	<ul style="list-style-type: none"> ○鑑賞①（生徒作品例） ○言葉の選定 ○観点の確認① ○構想・工夫① ○作品制作①（作品① 草稿） ○鑑賞②（作品① 草稿） ○意見交換① ○観点の確認② ○構想・工夫の見直し① 			◎		
2	<ul style="list-style-type: none"> ○構想・工夫② ○作品制作②（作品②） ○鑑賞③（作品②） ○意見交換② ○観点の確認③ ○構想・工夫の見直し② 		◎		◎	
3	<ul style="list-style-type: none"> ○鑑賞④（名筆、現代の書） ○意見交換③ ○観点の確認④ ○構想・工夫の見直し③ ○構想・工夫③ ○作品制作③（作品③） ○鑑賞⑤（作品③） ○意見交換④ ○観点の確認⑤ ○構想・工夫の見直し④ 	評価場面		評価場面		◎
4	<ul style="list-style-type: none"> ○構想・工夫④ ○作品制作④（作品④） ○鑑賞⑥（作品④） ○意見交換⑤ ○観点の確認⑥ ○構想・工夫の見直し⑤ 	評価場面				
5	<ul style="list-style-type: none"> ○構想・工夫⑤ ○作品制作⑤（作品⑤清書、押印） ○鑑賞⑦（作品⑤）（最終作品鑑賞会） ○意見交換⑥ ○最終自己評価 ○単元の学習のまとめ 		評価場面	評価場面	評価場面	評価場面

- ・ 各観点の実現状況を適切に捉えられる評価の場面を計画的に設定する。
- ・ その際、単元の評価規準に照らして実現状況を見取り把握して指導に生かす評価をする場面と、単元の評価規準に照らして実現状況を見取り記録に残す評価をする場面を観点ごとに設定する。

5 各観点における評価方法

○ 本事例における評価方法について

[知識・技能] 知	[思考・判断・表現] ①	[主体的に学習に取り組む態度] 態表
<p>「意見交換」「観点の確認」 ワークシート・活動の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> 既得の知識と新たに習得した知識を表現及び鑑賞の活動の中で生かす中で実感的に理解している状況を、構想・工夫の過程や鑑賞を通して考えたことの記録（ワークシート）、意見交換における発言（活動の様子）とその記録（ワークシート）等から見取り評価する。 	<p>「意見交換」「構想・工夫の見直し」 ワークシート・活動の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> 表現の意図に応じて言葉を選定する活動等の過程で見方・考え方を働かせながら、構想・工夫を見直したり、それを生かして構想・工夫を再構築したり、身に付けた知識や技能を生かして作品や書のよさや美しさを味わって捉え考えたりすることの実現状況を、各取組の記録（ワークシート）や活動の様子等から見取り評価する。 	<p>「構想・工夫」「作品制作」 ワークシート・活動の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> 相互鑑賞や相互批評・意見交換の中で働かせた見方・考え方を更に働かせ、振り返ったり見直しを立てたりしながら自身の表現の意図、構想、表現の工夫の見直しや再構築に主体的に取り組んでいる状況と、その実現のために粘り強く表現を工夫して表そうとしている態度を一体的に捉え、各取組の記録と照らして、作品制作への取組状況（活動の様子）等から見取り評価する。
[知識・技能] 技	[思考・判断・表現] ②	[主体的に学習に取り組む態度] 態鑑
<p>「作品制作」 ワークシート・作品</p> <ul style="list-style-type: none"> 表現の意図に基づき構想を練り、その実現のために表現を工夫して「表す」過程と制作した作品から技能の習得の実現状況を、表現の意図、構想、表現の工夫の取組の記録（ワークシート）と照らして、表現を工夫して表した成果（作品）から見取り評価する。 	<p>「最終自己評価」「単元の学習のまとめ」 ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> 最終作品鑑賞会では創造された作品の意味や価値について捉えて考えたり、「最終自己評価」及び「単元の学習のまとめ」では自身の学習を振り返って単元での学習の成果を実感的に捉えて考えたりしている状況もワークシートから見取り評価する。 	<p>「鑑賞」「意見交換」「単元の学習のまとめ」 ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> 相互鑑賞や相互批評・意見交換の中で働かせた見方・考え方を更に働かせ、知識を生かしながら自他の表現の意図、構想、表現の工夫、書のよさや美しさを感じ、書の伝統と文化の価値、書や文字の意味や価値等について主体的に強く捉え、粘り強く考えようとしている態度を、構想・工夫の見直しと再構築に生かそうとしている態度と一体的に捉え、鑑賞の際の取組状況や、鑑賞活動における記録、それを自身の表現に生かそうとする取組の記録等から見取り評価する。

(1) [知識・技能] の **知** における評価方法《第3次》

名筆や現代の書の表現の鑑賞を通して、書を構成する要素や漢字仮名交じりの書の特質に関わる諸要素が書の表現性・表現効果、風趣にどのように関わっているかを捉え、分析的に考え理解し、構想・工夫の見直し、構想・工夫の再構築に生かすことで実感的に理解している状況を、意見交換での発言やワークシートの構想・工夫の見直しと再構築の記録から見取る。

〈評価例〉

「おおむね満足できる」状況（B）

表現及び鑑賞の学習活動の中で身に付けた知識を生かし、用具・用材の特徴により生じる表現性が表現効果といかに関わっているか、名筆や現代の書の表現の中で用筆・運筆により生じた表現効果がいかに生かされているかについて理解している。

意見交換での発言やワークシートの記述から、「布置」や「章法」といった新たに得た知識・用語を使って説明したり、表現性や表現効果について分析的に捉えて考えるために知識を生かしたりしている状況が見取れたため、「おおむね満足できる状況（B）」と評価した。

(2) [思考・判断・表現] ①における評価方法《第3次》

名筆や現代の書の表現の鑑賞を通して、書の多様な表現やその表現効果を感じ、書を構成する要素や漢字仮名交じりの書の特質に関わる諸要素の表現性・表現効果を生む働きについて考えるとともに、広い視野から書を捉え、書の伝統と文化、現代の生活や社会における役割や効用等についても考えながら、自身の作品における表現の意図、構想、表現の工夫の見直し・再構築に取り組んでいる状況を、意見交換での発言やワークシートの記述から見取る。

〈評価例〉

「おおむね満足できる」状況（B）

漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ等の要素、行や全体の紙面構成等の様式について考えたり、既得の知識や技能を活用したり、名筆や現代の書の表現を生かしたりして、自身の表現の意図に基づいて構想・工夫するとともに、自身の考えを適切に言語化している。

ワークシートから、名筆や現代の書の表現の鑑賞と意見交換を生かして、更に構想の見直しを行い、新たな観点を生かして構想・工夫を再構築している状況や、鑑賞から着想を得て構想を練り直したり、言葉と表現の調和や墨量の変化等に注目して構想・工夫の見直しをしたりしている状況が見取れたため、「おおむね満足できる状況（B）」と評価した。

(3) [知識・技能] の [技] における評価方法《第5次》

既得の技能と、知識・観点も生かし、漢字と仮名の調和した線質等の漢字仮名交じりの書の特質に関わる諸要素とそれにより生じる表現性・表現効果を、自身の意図に基づく表現のために効果的に生かして表している状況を、作品から見取る。

〈評価例〉

「おおむね満足できる」状況（B）

漢字仮名交じりの書の特質に基づき、漢字と仮名の調和した線質等の漢字仮名交じりの書の特質に関わる諸要素を生かして効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、自身の表現の意図に基づいて表している。

効果的な余白や行間の工夫、行構成による全体構成の工夫や、線質の変化と調和、言葉と表現の調和、言葉の時間制や律動と運筆との調和等の表現効果を生かして表現しようとする意図と構想が、意見交換での発言やワークシートの記述から見取れ、その実現のために必要な技能を身に付け、効果的に表している状況が作品から見取れたため、「おおむね満足できる状況（B）」と評価した。

(4) [主体的に学習に取り組む態度] の [態鑑] における評価方法《第5次》

単元の学習でのこれまでの鑑賞活動を踏まえ、最終作品鑑賞会での相互鑑賞・意見交換を通して、自他の表現した作品のよさや美しさを感じ、創造された作品の意味や価値について主体的に考えようとしている態度、書の伝統と文化の価値を捉えようとする態度を、鑑賞会での様子や意見交換での発言、ワークシートの記述から見取る。

〈評価例〉

「おおむね満足できる」状況（B）

見方・考え方を働かせ、振り返ったり見通しを立てたりしながら、身に付けた知識や技能を生かして鑑賞活動に取り組む中で、作品や書の意味や価値について粘り強く主体的に考えようとしている。

前時のワークシートの「他の人のコメントが分析的……になってきた」、「他の人の作品も個性的な表現という感じにまとまってきた」の記述、本時のワークシートの「他の人の作品も個性的で魅力的」、「自分の言葉を表現することに価値のようなものを感じた」の記述及び活動の様子から、見方・考え方を主体的に働かせ作品並びに作品を表現することの意味や価値について主体的に考えようとする態度が見取れたため、「おおむね満足できる状況（B）」と評価した。

6 観点別学習状況の評価の総括

時	学習活動	知	技	思①	思②	態表	態鑑
1 ・ 2	<ul style="list-style-type: none"> 過去の生徒作品等を鑑賞し、表現の意図や工夫について考え、自身の表現の意図につなげて、適切な言葉を選定・決定する。 既習の観点及び新たな観点を踏まえながら、表現の意図、構想及び工夫について、適切に言語化する。 適切な表現形式を考え、作品を表す。 他者との作品の共有・相互鑑賞を通して、見方・考え方を働かせて捉え、次の構想・工夫に向けて相互批評・意見交換をする。 相互鑑賞や意見交換、自己評価等を生かして、必要な修正と新たな課題を確認する。 						
3 ・ 4	<ul style="list-style-type: none"> 自身の表現の意図、構想、表現の工夫について改めて考え、再構築し、適切に言語化する。 再構築した自身の表現の意図、構想、表現の工夫に基づいて、作品を表す。 作品をクラス全体（又はグループ）で鑑賞し、意見交換を行う。 観点の確認を行い、相互鑑賞や意見交換、自己評価等を生かして、必要な修正と新たな課題を確認する。 						
5 ・ 6	<ul style="list-style-type: none"> 名筆や現代の書の表現の鑑賞を行い、意見交換する。 観点の確認を行い、名筆や現代の書の鑑賞を生かしながら必要な修正と新たな課題を確認する。 名筆や現代の書の鑑賞を生かして作品を表す。 クラス全体で相互鑑賞を行い、名筆や現代の書の鑑賞を生かしながら意見交換を行う。 観点の確認を行い、相互鑑賞や意見交換、自己評価等を生かして、必要な修正と新たな課題を確認する。 	B		B			
7 ・ 8	<ul style="list-style-type: none"> 最終作品（清書）の制作に向けて、自身の思い描く作品の構想を更に膨らませ、自身の表現の意図、構想、表現の工夫について改めて考え、再構築する。 前時と同様に作品制作、クラス全体での鑑賞、意見交換及び観点の確認をする。 最終作品（清書）に向けた最終の見直しとして、これまでに習得してきた知識や技能を改めて確認し、見方・考え方を働かせて、自身の表現の意図、構想、表現の工夫の見直しを図る。 	A					
9 ・ 10	<ul style="list-style-type: none"> これまでの構想・工夫の経緯を振り返り、自身の表現の意図を再確認し、作品完成（清書）に向けた最終となる構想、表現の工夫について改めて考え、総合的・統一的な視点から、風趣にも目を向けた表現効果を意識して再構築する。 これまでの活動を振り返り、作品の変化や表現の工夫の経緯等を確認しながら、自身の表現の意図、意図に基づく構想、その実現のための表現の工夫について改めて考え、作品を表す。 最終作品を仕上げる上で、全体構成を考えて適切な位置に押印する。 最終作品をクラス全体で共有・相互鑑賞し、相互批評・意見交換をしながら創造された作品の意味や価値を主体的に考える。 単元のこれまでの活動を振り返り、見方・考え方を働かせ、完成した最終作品及び一連の創作活動について自己評価を行う。 学習を振り返り、「漢字仮名交じりの書」の特質と書や文字の生活や社会との関わりについて考える。 		A		A	B	B
観点別学習状況の評価		A	A	B	A	B	B
単元の総括		A		A		B	

- 「知識・技能」のうち、「知識」は評価を2回行い「BA」となったが、同数の場合は「A」にすることを、事前に定めているため「A」と総括した。
- 「思考・判断・表現」は、「BA」と同数となるため、「A」と総括した。

高等学校芸術科の「内容のまとめり」

高等学校芸術科（音楽）における「内容のまとめり」は、音楽Ⅰを例にあげると以下のようにになっている。

第1 音楽Ⅰ

「A表現」(1) 歌唱 及び [共通事項] (1)

「A表現」(2) 器楽 及び [共通事項] (1)

「A表現」(3) 創作 及び [共通事項] (1)

「B鑑賞」(1) 鑑賞 及び [共通事項] (1)

※ 第2 音楽Ⅱ、第3 音楽Ⅲにおいても、同様の「内容のまとめり」となっている。

高等学校芸術科（美術）における「内容のまとめり」は、美術Ⅰを例にあげると以下のようにになっている。

第4 美術Ⅰ

「絵画・彫刻」 「A表現」(1)、[共通事項]

「デザイン」 「A表現」(2)、[共通事項]

「映像メディア表現」 「A表現」(3)、[共通事項]

「作品や美術文化など鑑賞」 「B鑑賞」、[共通事項]

※ 第5 美術Ⅱ、第6 美術Ⅲにおいても、同様の「内容のまとめり」となっている。

高等学校芸術科（工芸）における「内容のまとめり」は、工芸Ⅰを例にあげると以下のようにになっている。

第7 工芸Ⅰ

「身近な生活と工芸」 「A表現」(1)、[共通事項]

「社会と工芸」 「A表現」(2)、[共通事項]

「作品や工芸の伝統と文化などの鑑賞」 「B鑑賞」、[共通事項]

※ 第8 工芸Ⅱ、第9 工芸Ⅲにおいても、同様の「内容のまとめり」となっている。

高等学校芸術科（書道）における「内容のまとめり」は、書道Ⅰを例にあげると以下のようにになっている。

第10 書道Ⅰ

「A表現」(1) 漢字仮名交じりの書 及び [共通事項] (1)

「A表現」(2) 漢字の書 及び [共通事項] (1)

「A表現」(3) 仮名の書 及び [共通事項] (1)

「B鑑賞」(1) 鑑賞 及び [共通事項] (1)

※ 第11 書道Ⅱ、第12 書道Ⅲにおいても、同様の「内容のまとめり」となっている。

外国語：論理・表現 I

単元名

論理の構成や展開を工夫して、意見を伝え合おう。

内容のまとめ

「話すこと [やり取り]」イ

《授業例》

1 単元の目標

社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うことができる。

2 本単元における言語活動

社会的な話題（世界の貧困）に関して聞いたり読んだりした内容について、意見や主張などを適切な理由や根拠とともに伝え合うディベート活動。

（関連：〔思考力、判断力、表現力等〕(3)

イ)

- ・ 作成の際は、指導事項と対応している学習指導要領記載の言語活動例を参考にする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 賛成・反対の意見を、論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うために必要となる表現を理解している。 ・ 社会的な話題について、賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して話して伝え合う技能を身に付けている。 	<p>自分の意見を相手によりよく理解してもらえるように、社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見に応じて、賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して話して伝え合っている。</p>	<p>自分の意見を相手によりよく理解してもらえるように、社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見に応じて、賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して話して伝え合おうとしている。</p>

- ・ 「知識・技能」は、「知識及び技能」の該当指導事項の内容を踏まえて、文末を「～している」として作成。
- ・ 「思考・判断・表現」は、「思考力、判断力、表現力等」の該当指導事項の内容を踏まえて、文末を「～している」として作成。
- ・ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、パフォーマンステストにおいて、「思考・判断・表現」と一体的に評価しているが、学期末の観点別学習状況の評価を行う際には、授業中の発話、教員による行動観察や、生徒による自己評価の状況などを判断材料として評価の総括を行う。

4 指導と評価の計画（全5単位時間想定）

時間	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ○単元の話題（世界の貧困）に対する生徒の興味・関心を喚起するとともに、単元の目標を確認する。 ○単元の目標や、単元の最後に行うパフォーマンステストについて確認し、学習の見通しをもつ。 ○単元の話題を把握し、題材について考える。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 一斉に記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を見届けて指導に生かすことは毎時間行う。 </div>	
2	<ul style="list-style-type: none"> ○単元の話題について、賛成・反対の立場から、自分の意見を持ち、必要な情報を収集する。 ○単元の話題に関連する映像を視聴する。 ○賛成・反対のグループに分かれ、個々の意見と根拠の妥当性や信頼性を相互に点検する。 		
3	<ul style="list-style-type: none"> ○論理の展開に基づいた構成メモを作成する。 ○賛成・反対・評価者のグループを作り、構成メモに基づいてパフォーマンステストの練習を行う。 		
4	<ul style="list-style-type: none"> ○パフォーマンステスト1回目を行う。 ○パフォーマンステスト後、自己評価とともにグループでの相互評価を行い、自分のパフォーマンスの改善に生かす。 	「知識・技能」 「思考・判断・表現」 [主体的に学習に取り組む態度]	「パフォーマンステスト」
5	<ul style="list-style-type: none"> ○パフォーマンステスト2回目を行う。 ○パフォーマンステスト後、再度自己評価と相互評価を行い、全体で共有する。 	「知識・技能」 「思考・判断・表現」 [主体的に学習に取り組む態度]	「パフォーマンステスト」

5 各観点における評価方法

○ 本事例における評価方法について

（ここでは、パフォーマンステストによる評価方法を示す）

[知識・技能]	[思考・判断・表現]	[主体的に学習に取り組む態度]
賛成・反対の意見を理由とともに述べる際に用いる表現を理解し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて活用できるかどうかを評価する。	社会的な話題（世界の貧困）について、与えられた情報を参考にしながら、相手の意見の要点に対して反論した上で、意見を適切な理由や根拠とともに述べることができるかどうかを評価する。	社会的な話題（世界の貧困）について、与えられた情報を参考にしながら、相手の意見の要点に対して反論した上で、意見を適切な理由や根拠とともに述べようとしているかどうかを評価する。

○ 採点の基準

単元を通して指導したいことを踏まえ、次の採点の基準によって評価する。「思考・判断・表現」については、三つの条件を全て満たしていれば「b」（おおむね満足できる）としている。

「思考・判断・表現」についての三つの条件

条件1：理由とともに、賛成・反対の意見を述べている。

条件2：相手の意見の要点を述べた上で反論している。

条件3：「世界の貧困」を解決するためにどのような行動を取りたいかを述べている。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	・語彙や表現が適切に使用されている。 ・聞き手にわかりやすい音声等で話して伝えている。	三つの条件を満たした上で、関連した情報や自分の考えを詳しく述べて伝えている。	三つの条件を満たした上で、関連した情報や自分の考えを詳しく述べて伝えようとしている。
b	・多少の誤りはあるが、理解に支障のない程度の語彙や表現を使って話して伝えている。 ・理解に支障のない程度の音声等で話している。	三つの条件を満たして話して伝えている。	三つの条件を満たして話して伝えようとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

6. 観点別学習状況の評価の総括

時間	学習活動	知	思	態
1	・単元の話題に関連する動画を視聴し、生徒の興味・関心を喚起するとともに、単元の目標を確認する。 ・単元の話材を踏まえたテーマについて、単元の最後に2回パフォーマンステストを行うことを確認し、採点基準を示す。 ・ワークシートを用いて、単元の話題に対する要点把握と話材に対する理解度を確認し、ペアで共有させる。		<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content;"> 一斉に記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を見届けて指導に生かすことは毎時間行う。 </div>	
2	・単元の話題に対する自らの意見をもつために、グループでブレインストーミングを行う。 ・単元の話題に関連する動画を視聴し、自分の意見の根拠となる情報を収集する。 ・賛成・反対のグループに分かれ、個々の意見と根拠の妥当性や信頼性を相互に点検し、全体に共有する。			
3	・自分の意見の論理の展開を確認するため、構成メモを作成する。 ・構成メモを基に、賛成・反対のペアで意見を述べ合い、それぞれの根拠の妥当性や信頼性を点検する。 ・ペアワークを踏まえ、賛成・反対のグループワークを行う。			
4	・全体で採点基準を確認し、自己評価・相互評価シートの記入方法について確認する。 ・パフォーマンステストに向け、個人で練習を行う。 ・グループでのパフォーマンステストを記録するための機器を各グループに一台準備し、パフォーマンステストを行う。 ・パフォーマンステスト終了後、自己評価・相互評価シ	A		B

	ートを記入する。			
5	<ul style="list-style-type: none"> ・1回目に行ったパフォーマンステストの動画等を視聴し、自己評価・相互評価シートの内容を踏まえ、個人で改善点を考えた後、グループで共有し、改善策を話し合う。 ・話し合った内容を踏まえ、2回目のパフォーマンステストを行う。 ・再度自己評価・相互評価シートを記入し、次回のパフォーマンステストに向けて学習状況の把握と課題、改善策等を考える。 ・上記を全体で共有する。 	B	A	A
ペーパーテスト（定期考査等）		A	B	—
単元の総括		A	B	A

- ・ 「主体的に学習に取り組む態度」は、パフォーマンステストの様子を観察した記録と、自己評価・相互評価シートの記述の確認で評価した。その結果「AB」となるが、第4次から第5次へ向けて試行錯誤しながら学習を調整していたこと、自己評価・相互評価シートに、次回に向けての改善策が具体的に記述されていたことから、総括して「A」とした。

高等学校外国語科の「内容のまとめり」

高等学校外国語科における「内容のまとめり」は、高等学校学習指導要領 第2章 第8節 外国語科の各科目の目標に示されている「五つ（三つ）の領域」のことである。英語コミュニケーションⅠを例にあげると以下のようにになっている。

○ 聞くこと

ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。

イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。

○ 読むこと

ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。

○ 話すこと [やり取り]

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うことができるようにする。

○ 話すこと [発表]

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。

○ 書くこと

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。

家庭：家庭基礎

単元名

成年として自立した経済生活を営むには

内容のまとめり

- C 持続可能な消費生活・環境**
 (1) 生活における経済の計画
 (2) 消費行動と意思決定

1 単元の目標

- (1) 自立した生活を営むために必要な家計の構造や生活における経済と社会の関り、家計管理、消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定の重要性、消費者保護の仕組みなどについて理解するとともに、生活情報の収集・整理が適切にできる。
- (2) 生活を見通した生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について、問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして、課題を解決する力を身に付ける。
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することについて、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。

単元の目標は、学習指導要領に示された科目の目標並びに単元で指導する項目及び指導事項を踏まえて設定する。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解している。 ・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解するとともに、生活情報を適切に収集・整理できる。 	<p>生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</p>	<p>様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することについて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</p>

単元の評価規準は、「内容のまとめりごとの評価規準」から単元において指導する項目及び指導事項に関係する部分を抜き出し、評価の観点ごとに整理・統合、具体化するなどして作成する。

[知識・技能]

「知識」については、「～について理解している」、「～について理解を深めている」として作成する。

「技能」については、「～の技能を身に付けている」、「～情報の収集・整理ができる」として作成する。

[思考・判断・表現]

教科及び科目の目標の(2)に示されている学習過程に沿って、各単元において、次に示す四つの評価規準を設定し、評価する。具体的には、①家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だし、解決すべき課題を設定する力については、その文末を「～について問題を見いだして課題を設定している」、②解決の見通しをもって計画を立てる際、生活課題について多角的に捉え、解決方法を検討し、計画、立案する力については、その文末を「～について(実践に向けた計画を)考え、工夫している」、③課題の解決に向けて実践した結果を評価・改善する力については、その文末を「～について、実践を評価したり、改善したりしている」、④計画や実践について評価・改善する際に、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現する力については、その文末を「～についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している」として、評価規準を設定する。

[主体的に学習に取り組む態度]

各単元の学習過程において三つの側面から評価規準を設定し、評価することが考えられる。具体的には、①粘り強さについては、その文末を「～について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている」、②自らの学習の調整について

は、その文末を「～について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている」、③実践しようとする態度については、その文末を「～について（地域社会に参画しようとするとともに）、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている」として、評価規準を設定する。

3 指導と評価の計画（10時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（・は評価規準）
1	<p>【ねらい】 自立した消費者をめざして自分の消費生活について問題を見だし、課題を設定することができる。</p> <p>・成年(18歳)に達すると何ができるようになるのか、生活事象全般にどのような変化が生じるのかについて話し合い、自立した消費者になるための消費生活の課題を設定して学習の見通しをもつ。</p> <p>【単元全体を貫く課題】 成年として、健康・快適・安全かつ持続可能な自立した消費生活を営むためには、何がどのようにできるようになればよいのだろうか。</p> <p>・振り返りシートに「学習のまとめ」と「今日の振り返り」を記入する。</p>	思 ①		<p>・生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として、適切な意思決定に基づいて行動することなどについて、問題を見だしして課題を設定している。 ワークシート</p> <p>-----</p> <p>振り返りのテーマ 成年になるとどのような責任が生じるか考えよう。</p>
	<p>【ねらい】 消費行動における意思決定や契約の重要性について理解することができる。</p> <p>・売買契約をはじめとする様々な契約の事例から、契約の成立条件、契約における権利と義務について整理する。</p> <p>・セミナー商法の消費者トラブル事例の背景や問題点を話し合い、未成年と成年の法律上の責任の違いについてまとめる。</p> <p>・「学習のまとめ」と「今日の振り返り」を記入する。</p>	知 ①	★	<p>・契約するときの注意点、契約における未成年と成年の法律上の責任の違いについて理解している。 ワークシート、(定期考査)</p> <p>・自らの消費行動における意思決定や契約の重要性について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 振り返りシート、行動観察</p> <p>-----</p> <p>振り返りのテーマ 契約では、どのようなところにトラブルが生じるのか考えてみよう。</p>
3	<p>【ねらい】 消費者保護の仕組みを理解することができる。</p> <p>・若者に多い契約トラブルの現状と課題、クーリング・オフの条件と手段、安全で豊かな消費生活を送るための法制度についてまとめる。</p> <p>・「学習のまとめ」と「今日の振り返り」を記入する。</p>	知 ②	★	<p>・クーリング・オフ制度の他、契約がキャンセルできる場合を理解している。 ワークシート、(定期考査)</p> <p>・自らの消費行動における意思決定や契約の重要性について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 振り返りシート、行動観察</p> <p>-----</p> <p>振り返りのテーマ ネットショッピングをする時の注意点を考えよう。</p>
	<p>【ねらい】 家計の構造、家計管理について理解し、ライフステージと関連付けた経済計画を考えることができる。</p> <p>・20代の給与明細と1か月に使う生活費のおよその平均額を比較・分析し、家計の構造、税金や社会保障制度との関わりについてまとめる。</p>	知 ③	★	<p>・給料の仕組み、家計の構造(可処分所得、非消費支出)について理解している。 ワークシート、(定期考査)</p>
4 ・ 5				

	<ul style="list-style-type: none"> 1か月の家計をシミュレーションし、自由に使えるお金には限りがあること、ライフイベントや不測の事態に備えた生涯を見通した家計管理の重要性に気付く。 「学習のまとめ」と「今日の振り返り」を記入する。 	思 ② 態 ②	○	<ul style="list-style-type: none"> 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージと関連付けて、課題の解決に向けて考え、工夫している。 ワークシート 生涯を見通した経済の管理や計画の重要性について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 振り返りシート、行動観察 <p>振り返りのテーマ ライフイベントにおいて、どれくらいの出費が必要なのかを知り、それに備えた計画を考えよう。</p>
	<p>【ねらい】 キャッシュレス決済の特徴やクレジットカードの仕組みなど多様な契約について理解し、計画性のある使い方・合理的な使い方を考えることができる。</p>			
6 ・ 7	<ul style="list-style-type: none"> ロールプレイを通して、多様な契約の仕組みや使い方を理解する。 様々なキャッシュレス決済のメリット・デメリットを書き出し、キャッシュレス決済のトラブルとその原因を考える。 キャッシュレス決済のトラブルについて、消費者市民としての行動を考える。 「学習のまとめ」と「今日の振り返り」を記入する。 	知 ④ 思 ③ 態 ③	★	<ul style="list-style-type: none"> 多様な契約の仕組みや使い方を理解している。 ワークシート、(定期考査) 自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することについて問題を見いだして課題を設定し、課題の解決に向けて考え、工夫している。 (定期考査) キャッシュレス化の進行による家計管理や計画の重要性について、課題の解決に主体的に取り組む、解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 振り返りシート、行動観察 <p>振り返りのテーマ 自分や周囲の人が、キャッシュレス決済のトラブルに遭わないための心がけや行動を考えよう。</p>
	<p>【ねらい】 若年者に多い消費者被害について、トラブルが起こる背景や問題点、消費行動における意思決定の重要性について消費者の権利と責任と関連付けて理解し、トラブルの対応策について考えることができる。</p>			
8 ・ 9	<ul style="list-style-type: none"> 各グループが担当する消費者被害の事例について、消費者行政のホームページにアクセスして情報を収集し、そのような事態が発生した原因や背景を分析する。 クラウド型グループウェアの共有ドキュメント上で、各グループが担当した事例の勧誘・販売方法の特徴や問題点を共有して共通点を探す。 グループで未然防止のポイントについて考えをまとめ、全体で発表し合う。 発表をもとに、若年者に多い消費者被害を未然防止するための共通する考え方やポイント(原理・原則)についてまとめる。 「学習のまとめ」と「今日の振り返り」を記入する。 	知 ⑤ 知 ⑥ 思 ④ 態 ④	★	<ul style="list-style-type: none"> 国民生活センターや消費生活センターのホームページから、財やサービスに関する正確な情報、被害防止策についての情報を適切に収集・整理している。 ワークシート 消費者の権利と責任について理解している。 ワークシート、(定期考査) 自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することについて、実践を評価したり、改善したりしている。 ワークシート、行動観察 消費行動における意思決定や契約の重要性について、課題の解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 振り返りシート、行動観察 <p>振り返りのテーマ 消費者被害に遭わないために気を付けることをまとめよう。</p>

	【ねらい】 自立した消費者として適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について考え、工夫することができる。	
10	<ul style="list-style-type: none"> 個人で消費者トラブルの問題解決に取り組み、自立した消費者として社会への影響を意識した責任ある消費行動について考える。 自立した消費者になるために自分が今できることを考え、行動目標を立てる。 	<p>思 ⑤ ○</p> <ul style="list-style-type: none"> 自立した消費生活を営むために、家計の管理や計画、適切な意思決定に基づいて行動することなどについての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。 <p>家庭基礎レポート(パフォーマンス課題)</p> <p>態 ⑤ ○</p> <ul style="list-style-type: none"> 自立した消費者として消費者の権利と責任や消費者問題に関心を持ち、適切な意思決定に基づいて行動することについて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上に向けて実践しようとしている。 <p>家庭基礎レポート(振り返り)</p>

※1 重点…重点的に生徒の学習状況を見取る観点。ただし、重点としていない観点についても、教師の指導の改善や生徒の学習改善に生かすために、生徒の学習状況を確認することは重要である。

※2 記録…備考に記入している単元の評価規準に照らして、全員の学習状況を「記録に残す評価」に○を付す。定期考査により「記録に残す評価」とする箇所には、★を付す。

4 各観点における評価方法

(1) [知識・技能]における評価方法

定期考査において、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮するなどの工夫改善を図るだけでなく、生徒が文章による説明をしたり、表やグラフで表現したりするなど、実際に学習によって習得した知識・技能を活用する場面を設けるなど、多様な方法を適切に取り入れていくことが考えられる。

本事例では、単元を通して「知識・技能」に関する「ワークシートの記述」は、「指導に生かす評価」として授業中の指導の改善に生かすために用い、ある程度の内容のまとまりについて定期考査を実施し、「記録に残す評価」とした。

〈評価例〉

評価規準②、⑥を評価するために実施した、知識の概念的な理解を問う定期考査の問題例

注文もしていない本がAさんのもとに送られてきた。同封の手紙には、「1週間以内に商品を返送しなければ 購入したものとみなす」などと記されていたが、Aさんは放っておいた。

(1) 次の①～③のうち正しい説明を選び、選択の理由を述べなさい。[知②]

- ①放置していたAさんには、代金支払いの義務が発生する。
- ②代金支払い義務までは負わないが、商品は返送しなければならない。
- ③代金支払い義務も商品を返送する義務もない。商品は直ちに処分することができる。

(2) このような消費者トラブルにあった時に、地域の消費生活センターや消費者ホットライン188番に相談する意義は何か、述べなさい。[知⑥]

「おおむね満足できる」状況 (B)

(1)の解答例 ③ (理由) 一方的に送りつけられただけでは売買契約は成立していないので、代金の支払いも返送の必要もない。

(2)の解答例 消費者トラブルにあった場合、あきらめて行動しないでいると、トラブルや不正な取引が続いて被害がどんどん広がっていく。しかし、消費生活センターに相談することで、トラブルの解決方法を知り対処できる。

(1)の解答例については、売買契約は成立していないことを、筋道を立てて述べており、記述内容から契約がキャンセルできることを理解していると読み取れるため、「おおむね満足できる」状況 (B) と判断した。

(2)の解答例については、消費生活センターに相談することで、自分のトラブルの解決方法を知り、対処できることを述べており、消費者の権利と責任について理解していることが記述内容から読み取れるため、「おおむね満足できる」状況 (B) と判断した。

(2) [思考・判断・表現]における評価方法

第1時に、健康・快適・安全かつ持続可能な社会を見通して、成年として自立した消費生活を営むための課題を設定して本単元の学習の見通しをもつとともに、その解決に向けて、第4時以降に「家計とその特徴、家計管理」、「キャッシュレス決済の仕組み、使い方」、「若年者によくある消費者被害」の三

つの課題を設定している。これら一連の問題解決的な学習過程の中で、生涯を見通して課題を解決する力が身に付いているかを評価する。

この観点で評価する資質・能力は時間をかけて伸びていくものであるため、評価規準①については、1時間目に「成年になるとどのような責任が生じるか考えよう」というテーマに対する自分の考えをワークシートに記述させ、「指導に生かす評価」としている。18歳で成年に達すると、「自分一人で契約ができ、契約には責任が伴う」ことに対して、現在の自分の消費生活や消費行動とのズレや葛藤、対立する感情などに揺さぶりをかけ、消費生活に関わって自分には「知らないこと・できていないことがある」ことを認識しているかどうかを中心に、ワークシートの記述の確認を行い、この後の学習につなげる。第4時以降の三つの学習課題に取り組む学習活動の中で、評価規準②と③は「記録に残す評価」に、評価規準④は「指導に生かす評価」としている。ここでは、行動観察やワークシートの記述内容から主に「努力を要する」状況（C）と判断される生徒を把握して、生徒全員が思考を深めていく授業の流れを大切にしながら、学びを進展・改善させたり、学習の方法をつかませたりするなどの手立てを講じ、指導に生かしていく。その上で、単元のまとめとして第10時にパフォーマンス課題〔例〕を設定し、評価規準⑤で「記録に残す評価」を行っている。

〈評価例〉

評価規準⑤を評価するために設定した、授業中に取り組む「家庭基礎レポート」におけるパフォーマンス課題の例

家庭基礎レポートの一部（パフォーマンス課題）〔例〕

私は、高校時代に悪質商法や契約について学んだにもかかわらず、下のような消費者被害に引っかかってしまいました。後で冷静になって考えると避ける方法はいくらでもあったのに、今になって後悔しています。今後どのように行動したらよいか、考えてください。

＜消費者被害の内容＞

私は18歳の大学生。友人から「投資で稼げるようになるビジネススクールがある。」と誘われ、興味をもち、カフェで代表者から入会条件や成功談を聞いた。「契約時に10万円、月謝で2万円がかかるが、4人紹介すれば月謝は免除される。1人紹介すれば紹介料5万円を払うので元が取れる。」と言われた。「これならすぐに儲かる」と思い、指示されたとおり書類に記入し、学生ローンに連れて行かれお金を借り、入会した。何回かスクールに通ったが儲からず止めたくなった。しかし、代表者に伝えたら、「止めるなら解約金5万円だ。」と言われた。

①この事例の問題点

②解決策・対応策(具体的にどうする?)

③どの場面でゆっくり考えたり、確かめたりする必要があったでしょうか。また、断るための言い方を考えましょう。

* パフォーマンス評価は、学習者が与えられたパフォーマンス課題を解決する過程を評価対象とし、パフォーマンス課題と評価規準によって構成される。パフォーマンス課題とは、「学習者のパフォーマンスによって高次の学力を評価しようとする課題であり、より複雑で現実的な場面や状況で知識・技能を使いこなすことを求める課題」である。

「おおむね満足できる」状況（B）

解答例

①指示されたとおりに書類に記入してしまった。学生ローンに連れて行かれ、お金を借りて入会した。友人からの誘いで油断している。

②おかしいと感じたら、すぐに返事をせずに、信頼できる大人（親や先生など）に相談したり、消費生活センターなどに相談したりする。

③書類に記入する前に、本当に記入しても大丈夫なのかをよく考える。友人に誘われたときに時に、それは本当にあるのか、大丈夫なのかを確かめる必要があった。「そういうのは、危なそうだからやめておく。」と言う。

事業者側の情報を過信することなく、批判的思考に裏付けて意思決定できている。また、被害にあった際の解決策として、身近な大人や消費生活センターへの相談を挙げ、具体的な場面を明示してどう行動すべきか、断るべきかを記しているため、「おおむね満足できる」状況（B）と判断した。

(3) [主体的に学習に取り組む態度] における評価方法

この單元では、「(1)生活における経済の計画」「(2)消費行動と意思決定」に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けたり、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することについて考え、工夫する際に、**1**粘り強く取り組んでいるか、**2**それらに関する学習の進め方について振り返るなど、自らの学習を調整ようとしているかについて評価する。さらに、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、健康・安全・快適かつ持続可能な社会の構築の視点から、**3**自立した消費者として、自分や家庭、地域の生活の充実向上に向けて実践しようとしているかについて評価する。

評価規準①～④については、行動観察や振り返りシートを用いて生徒の学習状況を継続的に確認して

「指導に生かす評価」とするとともに、単元や学年末の評価を決定する際の参考資料とする。

【単元全体を貫く課題】は、単元を通して最も押さえたい重要な内容を問いの形で示している。学習前・後に【単元全体を貫く課題】に対する生徒の考えを記入させることで、学習内容に関する知識及び技能や生活を捉える視点がどのように変容したのか等、生徒の理解や思考の質の深まり、広がりを確認することを目的としている。「学習のまとめ」と「今日の振り返り」の記述からは、成年として自立した消費者になることを自分事として意識し、主体的に粘り強く取り組もうとしているか、家計シミュレーションやキャッシュレス決済のロールプレイ、消費者被害の事例研究の場面でうまくできなかったことを振り返って改善しようとしているか等、自らの学習を調整しようとする側面を確認する。

〈評価例〉

評価規準⑤について、**1**粘り強さや**2**自らの学習の調整の側面は、第10時に行った家庭基礎レポート（パフォーマンス課題）の記述内容から「思考・判断・表現」と一体的に評価する。**3**実践しようとする態度の側面については、家庭基礎レポート（振り返り）の記述内容を分析し、**1**から**3**を合わせて「記録に残す評価」とする。

家庭基礎レポートの一部（振り返り）

消費経済を学習して

みなさんは、18歳で成年となります。成年になるまでの間に、「意思決定力」を身に付けるために、どのようなことを学んでおく必要があるでしょうか。

「おおむね満足できる」状況（B）

記述例

もっと法律やお金の仕組みについて勉強しておく。生活情報を集めて、いろいろな情報の中から選択し、活用できるように情報を見極める力を付ける。自分で判断する力を付けたい。

知識を蓄え、どのように行動を変えていくか言及しているため、「おおむね満足できる」状況（B）と判断した。

5 観点別学習状況の評価の総括（例）

〈表1 本事例の総括的な評価計画〉

時間	第2～9時	第5時	第10時	
単元の評価規準	知①～④・⑥、思③	思②	思⑤	態⑤
評価方法	定期考査	ワークシート	家庭基礎レポート (パフォーマンス課題)	家庭基礎レポート (振り返り)
評価時期	複数の単元が終了した時点で評価する	単元の学習活動内で評価する		

単元ごとの
観点別評価としての
総括

○ 評価結果のA、B、Cの数を基に総括する場合

評価結果のA、B、Cの数を目安として、各観点の評価結果の数が最も多いものを、総括した評価とする。

〈表2 本事例における単元の観点別学習状況の評価の総括（例）〉

成年として自立した経済生活を営むには		定期考査	ワークシート	家庭基礎レポート (パフォーマンス課題)	家庭基礎レポート (振り返り)	単元の総括
評価の記録 生徒Aの	知識・技能	A				A
	思考・判断・表現	A	B	B		B
	主体的に学習に取り組む態度			㊸	B	B

* 主体的に学習に取り組む態度の㊸は、パフォーマンス課題の結果に振り返りシートや授業での行動観察も加えて、最終的に判断した評価結果を表している。

- ・ 「知識・技能」は、定期考査で評価した。
- ・ 「思考・判断・表現」は、定期考査、ワークシート、レポートで評価した。「ABB」となり、Bの数が多いため、「B」と総括した。
- ・ 「主体的に学習に取り組む態度」は、レポートの記述内容から、評価した。

高等学校家庭科の「内容のまとめり」

高等学校家庭科における「内容のまとめり」は、以下のようにになっている。

第1 家庭基礎

- A 人の一生と家族・家庭及び福祉
 - (1) 生涯の生活設計
 - (2) 青年期の自立と家族・家庭
 - (3) 子供の生活と保育
 - (4) 高齢期の生活と福祉
 - (5) 共生社会と福祉
- B 衣食住の生活の自立と設計
 - (1) 食生活と健康
 - (2) 衣生活と健康
 - (3) 住生活と住環境
- C 持続可能な消費生活・環境
 - (1) 生活における経済の計画
 - (2) 消費行動と意思決定
 - (3) 持続可能なライフスタイルと環境
- D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

第2 家庭総合

- A 人の一生と家族・家庭及び福祉
 - (1) 生涯の生活設計
 - (2) 青年期の自立と家族・家庭及び社会
 - (3) 子供との関わりと保育・福祉
 - (4) 高齢者との関わりと福祉
 - (5) 共生社会と福祉
- B 衣食住の生活の科学と文化
 - (1) 食生活の科学と文化
 - (2) 衣生活の科学と文化
 - (3) 住生活の科学と文化
- C 持続可能な消費生活・環境
 - (1) 生活における経済の計画
 - (2) 消費行動と意思決定
 - (3) 持続可能なライフスタイルと環境
- D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

情報：情報Ⅰ

単元名
情報デザイン

内容のまとめり
コミュニケーションと情報デザイン

《授業例》

1 単元の目標

(1) 目的や状況に応じて受け手に分かりやすく情報を伝える活動を通じ、情報の科学的な見方・考え方を働かせて、メディアの特性やコミュニケーション手段の特徴について科学的に理解する。

〔知識及び技能〕

(2) 効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法を身に付け、コンテンツを表現し、評価し改善する。

〔思考力、判断力、表現力等〕

(3) 情報と情報技術を活用して効果的なコミュニケーションを行おうとする態度、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

〔学びに向かう力、人間性等〕

- ・ 「学びに向かう力、人間性等」については、いずれの単元においても当該科目の目標を示す。

2 本単元における言語活動

情報デザインにおけるコンテンツの制作について、協働して分析、考察、討議する。

- ・ 作成の際は、指導事項と対応している学習指導要領記載の言語活動例を参考にする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 情報デザインの考え方について理解している。 ② 情報デザインの方法について身に付けている。 ③ コンテンツ制作の一連の過程について理解している。	① 目的や受け手の状況に応じた情報デザインを考えている。 ② 情報デザインの考え方や方法を用いて表現している。 ③ コンテンツの設計、制作、実行、評価、改善をしている。	① コミュニケーションの目的や伝える情報を明確にしようと粘り強く取り組もうとしている。 ② 情報デザインの考え方や方法に基づいて考えようと粘り強く取り組もうとしている。 ③ 各授業及び一連の活動を振り返ることを通して、自らの学習を調整しようとしている。

- ・ 「内容のまとめり」ごとの評価規準の考え方等を踏まえて作成。
- ・ 「知識・技能」と「思考・判断・表現」は、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の該当指導事項の文末を「～している」として作成。
- ・ 情報科の内容には、「学びに向かう力、人間性等」に係る指導事項は示されていない。そのため、当該科目目標(3)を参考に作成。

4 指導と評価の計画（全8単位時間想定）

次	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	○ コンテンツ制作の企画 ・ コンテンツの制作・評価・改善の流れを知ることを通して、コンテンツ制作の一連の過程を理解できるようにする。	〔知識・技能〕 ①	企画書

	<ul style="list-style-type: none"> 企画書をグループで考えることを通して、目的に応じた Web サイトの設計を考えることができるようにする。 		
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中間評価・検証、フィードバック ・ 役割ごとに制作した作品を統合し、作品の改善について具体的な方法を考えることを通して、コンテンツの評価を行う。 ・ これまでの一連の学習活動を振り返ることを通して、今後どう取り組んでいくかという学習活動の調整をしようとする。 	[思考・判断・表現] ① [主体的に学習に取り組む態度] ①	ワークシート 振り返りシート
3	<ul style="list-style-type: none"> ○ コンテンツの評価 ・ 作品の自己評価や相互評価を通して、コンテンツの評価を行う。 	[思考・判断・表現] ②	成果物 ワークシート
4	<ul style="list-style-type: none"> ○ コンテンツ制作の振り返り ・ コンテンツ制作全体を振り返ることを通して、学習活動の一連の過程を振り返ろうとする。 	[主体的に学習に取り組む態度] ②	振り返りシート

・ 各観点の実現状況を適切に捉えられる場面及び評価方法を精選する。

5 各観点における評価方法

○ 本事例における評価方法について

[知識・技能] ①	[思考・判断・表現] ①	[思考・判断・表現] ②	[主体的に学習に取り組む態度] ①②
企画書 <ul style="list-style-type: none"> ・ コンテンツ制作の一連の過程について理解しているかを確認する。 	ワークシート <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報デザインの考え方や方法を用いて表現しているかを確認する。 	成果物・ワークシート <ul style="list-style-type: none"> ・ コンテンツの設計、制作、実行、評価、改善しているかを確認する。 	振り返りシート <ul style="list-style-type: none"> ・ コンテンツ制作の一連の活動を振り返ることを通して、自らの学習を調整しようとしているかを確認する。

○ 第5時における「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

本時においては、「思考・判断・表現（思）」「主体的に学習に取り組む態度（態）」について、全員の記録をとる評価を行う。なお、本単元では、作成するコンテンツは、アプリケーションのユーザインターフェースや動画制作、ポスター制作なども考えられるが、今回は Web サイト制作を行う実習を扱う。

① 目標

- ・ 制作したコンテンツの評価・検証を行い、制作及び学び方の一連の過程を改善しようとすることで、情報社会に主体的に参画する態度を身に付ける。

② 評価規準

- ・ 思：役割ごとに制作した作品を統合して実行し、作品の改善について具体的な方法を考えることを通して、コンテンツを評価しようとする。
- ・ 態：これまでの一連の学習活動を振り返ることを通して、今後どう取り組んでいくかという学習活動の調整をしようとする。

③ 第5時の展開

学習活動	評価と配慮事項
<全体指導> 1. 本時の流れを確認する。 <グループ活動> 2. 制作したコンテンツを統合する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習活動の一連の過程を確認し、本時の目標を確認させる。 ・ 目標達成に向けての一連の計画を確認し、本時に取り組むことをグループで共通認識をもつよう指導する。

<ul style="list-style-type: none"> コンテンツ制作の進捗状況の確認、本時に取り組むことを確認する。 これまでに役割ごとに制作したコンテンツを統合する。 <p>3. 統合したコンテンツの評価・検証をする・</p> <ul style="list-style-type: none"> 統合したコンテンツの評価を行い、改善点を検証する。 Web サイト制作の条件との適合性 企画書との一致性 Web サイトのバグ <p>4. 作品の改善について具体的な方法の検討をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な改善方法を考える。 今後の制作の計画を修正する。 <p><個人活動></p> <p>5. 学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習の振り返りを振り返りシートに入力する。 	<ul style="list-style-type: none"> グループで現在の進捗状況やデータを共有するよう指導する。 ワークシートに入力し、グループで情報を共有していくように指導する。 コンテンツの評価では、確認項目を示して、検証させる。 <p>思：ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> 誰が、いつまでに、どのように取り組むのか、改善点の優先順位について話し合わせる。 今回の検証結果を基に、グループ全体の今後の計画を見直させる。 <p>態：振り返りシート</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後のコンテンツの制作に向けて、どのように学習を調整するのか考えさせ、振り返りシートに入力させる。
--	---

第8時間目 中間評価・検証 フィードバック
Webサイトの制作 振り返り

本時の「中間評価・検証、フィードバック」の授業およびこれまでの一連の授業を振り返りましょう。

① 本時の学習を振り返り、学んだことや気づいたことは何ですか？
具体的に書きましょう。 【回答必須】

② 本時の学習を振り返り、今後どのように取り組んでいきたいですか？
理由も含めて書きましょう。 【回答必須】

送信

④ 指導と評価方法

第5時の中間評価・検証、フィードバックでは、グループ内で評価して、作品の改善について具体的な方法を考える。なお、コンテンツの改善について、グループだけでは改善策が思いつかないような場合は、クラスの中で情報を共有する場面を作り、生徒同士で学び合うことで解決するきっかけを作ったり、教員から解決のヒントとなる情報を提供したりすることで、生徒が自ら気付くきっかけを作り、見通しをもって取り組めるように指導する。

以下に示すのは、生徒の記述例に対する評価と評価の視点の例である。

「おおむね満足できる」状況（B）

<評価の視点>

これまでの一連の学習活動を振り返ることを通して、今後どう取り組んでいくかの学習活動の調整をしようとしているかを見取る。

<生徒の記述例>

統合した Web サイトには、形式やフォントにばらつきがあり、アクセシビリティに問題があると指摘を受けた。グループでお互いに調整を行い、より利用しやすいコンテンツとなるように統一すべき項目を確認しながら作成する。

傍線部により学習の調整や主体性を確認することができたため、「おおむね満足できる状況（B）」と評価した。

6 観点別学習状況の評価の総括

時	学習活動	知	思①	思②	主①	主②
1	○ 情報デザイン ・ グラフィックソフト等でコンテンツを制作することを通して、情報デザインの考え方を理解し、その方法を身に付けられるようにする。					
2	○ コンテンツ制作の企画 ・ コンテンツの制作・評価・改善の流れを知ることを通して、コンテンツの制作の一連の流れを理解できるようにする。 ・ 企画書をグループで考えることを通して、目的に応じた Web サイトの設計を考えることができるようにする。	B				
3 4	○ コンテンツの制作 ・ グループ内で役割分担を行い、並行して作業を進めながら制作することを通して、コンテンツの制作に取り組む。 ・ 伝える情報を明確にしようと、企画書に基づいてコンテンツの制作をすることを通して、コンテンツ制作に粘り強く取り組もうとする。					
5	○ 中間評価・検証、フィードバック ・ 役割ごとに制作した作品を統合し、作品の改善について具体的な方法を考えることを通して、コンテンツの評価・検証を行う。 ・ これまでの一連の学習活動を振り返ることを通して、今後どう取り組んでいくかという学習活動の調整をしようとする。		B		B	
6	○ コンテンツの改善 ・ フィードバックに基づいて、作品を制作することを通して、コンテンツを改善しようとする。 ・ 情報デザインの考え方や方法に基づいて考えようとする活動を通して、コンテンツ制作に粘り強く取り組もうとする。					
7	○ コンテンツの評価 ・ 作品の自己評価や相互評価を通して、コンテンツの評価を行う。			B		
8	○ コンテンツ制作の振り返り ・ コンテンツ制作全体を振り返ることを通して、学習活動の一連の過程を振り返ろうとする。					A
ペーパーテスト（定期考査等）		A	B	A		—
単元の総括		A	B		A	

- ・ 「知識・技能」は、第2時の企画書とペーパーテストで評価した。その結果、「BA」となるが、ペーパーテストの方がより実現状況を適切にみることができるとし、「A」と総括した。
- ・ 「思考・判断・表現」は、第5時の記述及び第7時の記述において「BB」、ペーパーテストにおいて「BA」、併せて「BBBA」となることから、総括して「B」とした。
- ・ 「主体的に学習に取り組む態度」は、第5時の記述及び第8時の記述において「BA」となるが、第8時の振り返りにおける内容を高く評価し「A」とした。

高等学校情報科の「内容のまとめり」

高等学校情報科における「内容のまとめり」は、以下のようになっている。

第1 情報Ⅰ

- (1) 情報社会の問題解決
- (2) コミュニケーションと情報デザイン
- (3) コンピュータとプログラミング
- (4) 情報通信ネットワークとデータの活用

第2 情報Ⅱ

- (1) 情報社会の進展と情報技術
- (2) コミュニケーションとコンテンツ
- (3) 情報とデータサイエンス
- (4) 情報システムとプログラミング
- (5) 情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探究

2 総合的な探究の時間

総合的な探究の時間

単元名
町民の健康寿命を延ばすために ～地域住民と共に取り組めること～（第3学年）

内容のまとめり 「福祉」「健康」
探究課題
町民の健康に関する問題と、健康寿命の改善に向けた具体的な取組（全35時間）

《授業例》

1 単元の目標

- (1) 町民の健康や福祉を向上するための活動を通して、（中核となる学習活動）
- (2) わが町の福祉は様々な人や組織が関わり合って成り立っていることや、持続可能な取組を創造していくことの意義や価値について理解するとともに、【知識及び技能】
- (3) 健康寿命を延ばすための方策を科学的根拠に基づいて考察し、【思考力、判断力、表現力等】
- (4) 自他を尊重する精神をもちながら様々な世代が健康に暮らす社会を共に実現しようと行動できるようにする。【学びに向かう力、人間性等】

- ・ 「内容のまとめり」をもとに、探究課題を踏まえた中核となる学習活動を設定する。
- ・ 【知識及び技能】【思考力、判断力、表現力等】【学びに向かう力、人間性等】については、中核となる学習活動を通して育成を目指す資質・能力を構造的に配列し、文末を「～できる」「～できるようにする」等として示す。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①町民の健康や福祉の向上のために様々な人や組織が関わり合っていること、高齢者も活躍できる社会の実現に向けては持続可能な取組を共に創造していくことが大切であることを理解している。</p> <p>②考案した取組の効果に関する実地調査を、相手や研究内容に応じた適切さで正確に実施している。</p> <p>③町民の健康や福祉に対する認識の高まりは、健康寿命の改善に向けた創造的な取組について探究してきたことの成果であることに気付いている。</p>	<p>①町民が抱える健康上の問題点について、自己の関心をもとに研究内容を設定し、検証方法を考え研究計画書を作成している。</p> <p>②町民の健康の現状を捉えるために、自己の研究内容に応じて、手段を選択し情報を収集したり蓄積したりしている。</p> <p>③統計や先行研究、町民を対象にした調査結果をもとに、自分たちにできる高齢者の健康寿命促進の取組を検討し、実施効果に着目して、取組内容を決めている。</p> <p>④町民の健康や福祉の今後の在り方について、自己の取組を振り返り、学習や生活に生かしている。</p>	<p>①町民の健康の実態に関して、他者の研究内容との関係で自らが設定した研究内容の特徴を捉え、向き合おうとしている。</p> <p>②行政や医療職、介護施設職員等と協働して町民の健康寿命の向上に取り組もうとしている。</p> <p>③町民の健康や福祉の維持発展に向け、持続可能な自己の取組を明らかにして将来社会の実現に貢献しようとしている。</p>

- ・ 「内容のまとめりごとの評価規準」をもとに、具体的な学習活動からめざすべき学習状況としての生徒の姿を想定し、文末を「～している」として作成する。
- ・ 【知識・技能】については、「①概念的な知識の獲得」、「②自在に活用することが可能な技能の獲得」、「③探究の意義や価値の理解」の三つに関する評価規準を作成することが考えられる。
- ・ 【思考・判断・表現】については、「①課題の設定」、「②情報の収集」、「③整理・分析」、「④まとめ・表現」の過程で育成される資質・能力に関する評価規準を作成することが考えられる。
- ・ 【主体的に学習に取り組む態度】については、「①自己理解・他者理解」、「②主体性・協働性」、「③将来展望・社会参画」などについて育成される資質・能力に関する評価規準を作成することが考えられる。

3 指導と評価の計画（全 35 単位時間想定）

小単元名(時数)	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1 地域課題を整理し、高齢者福祉の在り方について考えよう。(8)	<ul style="list-style-type: none"> 地域の健康や福祉に対する問題点について自らの認識を出し合い、過疎化、高齢化と深く関連していることを確認する。 高齢者の健康や福祉に焦点を絞って研究内容を設定し、課題の解決に向けた今後の活動への見通しや検証方法を考える。 	[思考・判断・表現]①	<ul style="list-style-type: none"> 発言 研究計画書 研究日報
	<ul style="list-style-type: none"> 自己の研究内容に照らして必要な情報を収集し、分析した結果を研究内容報告会で交流し合う。 研究内容報告会から、町民の健康寿命の現状に関する課題意識を高め、研究計画書を更新する。 	[思考・判断・表現]② [主体的に学習に取り組む態度]①	<ul style="list-style-type: none"> 研究内容報告会における発表や発言 研究計画書
2 高齢者の健康寿命の改善に向けて、自分たちができる取組について考え、検証しよう。(15)	<ul style="list-style-type: none"> 先行研究やアンケート調査等を踏まえて、町民の健康寿命に関する現状の分析を行い、実施可能な方策について検討する。 具体的事例 ア 	[思考・判断・表現]③	<ul style="list-style-type: none"> 健康寿命改善計画書 データ分析資料 研究日報
	<ul style="list-style-type: none"> 行政や医療職等と連携・協働した高齢者向け健康教室を実施するとともに、自分たちが考案した取組の検証や改善を行う。 具体的事例 イ 	[知識・技能]② [主体的に学習に取り組む態度]②	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察や発言 データ分析資料 研究日報
3 自分たちの取組を振り返り、高齢者福祉の今後の在り方について考えよう。(12)	<ul style="list-style-type: none"> 研究内容への取組をまとめ、得られた成果や効果についての研究発表会を企画・実施する。 	[知識・技能]③ [思考・判断・表現]④	<ul style="list-style-type: none"> 研究発表会における発表や質疑応答 研究日報
	<ul style="list-style-type: none"> 自己の研究内容に関する結論や考察について研究集録にまとめる。 具体的事例 ウ 	[知識・技能]① [主体的に学習に取り組む態度]③	<ul style="list-style-type: none"> 研究集録

- ・ 観点別の学習状況について評価する時期や場面については、総括的な評価を行うため、目指すべき学習状況が生徒の姿となって表れやすい場面、全ての生徒を見取りやすい場面を選定する。

4 各観点における評価方法

(1) [思考・判断・表現] ③ (具体的事例 ア)

〈評価の場面〉

生徒は、小単元1で整理された地域の高齢者福祉に関する問題について、各種の統計調査や先行研究などを用いて、現状の分析を行い、地域の高齢者の健康寿命が国内平均値を下回ることに着目するとともに、さらに詳細なデータ分析が必要なことに気付いている。

そこで、課題の分析をより深めるために、地域の高齢者向けの体力測定やアンケート調査を実施することで、自分たちができる高齢者の健康寿命の改善の取組を検討できるよう、高校生主体の健康教室を行うこととした。この場面では、高齢者とともに取り組むトレーニングの内容として、情報科・福祉科・数学科・保健体育科の知識を活用し、科学的根拠をもったトレーニングの方法を検討する。また、持続性や安全性にも考慮し、家庭でも実施可能なトレーニング方法を考案する。

ここでは、主に健康寿命改善計画書に記載された内容を「思考・判断・表現③」の評価資料とした。

〈学習活動における生徒の姿と評価の結果〉

評価規準 [思考・判断・表現] ③

統計や先行研究、町民を対象にした調査結果をもとに、自分たちにできる高齢者の健康寿命促進の取組を検討し、実施効果に着目して、取組内容を決めている。

【生徒Aの振り返り】～健康寿命改善計画書の一部～

データを分析することで、課題が明確になったように思います。町内の高齢者向けに行った調査のデータと国内平均を比較すると、町内の高齢者は下半身の柔軟性に課題があることが予想されます。だから、この部分の柔軟性を高めることで、体だけではなく血管も柔らかくなり動脈硬化などの病気を防ぎ、健康的な体をつくることのできるのではないかと考えました。

生徒Aは、傍線部において、国内平均データと町民データの比較を通して、そこから推察される状況を踏まえて自分としての仮説を立てている。また、波線部において、高齢者の身体的特徴についても考慮するなど、高齢者に対して多面的に考察していることが窺える。こうした姿から、評価規準に示す資質・能力が育成されていると考えることができる。

(2) [主体的に学習に取り組む態度] ② (具体的事例 イ)

〈評価の場面〉

前時で検討・作成した高齢者向けトレーニングを用いて、実際に運動する機会や場などを町内の高齢者に提供し、健康寿命を促進させたいと考えた生徒は、地域住民の福祉の向上や健康の増進に寄与し、高齢者の介護予防活動や世代相互の交流を図る拠点施設を活用することにした。この施設には、町役場福祉課職員や介護福祉士、看護師など多様な職種の職員が勤務しており、職員との交流を通じて健康教室の内容が改善されるとともに高齢者福祉の在り方について多面的な視点で考える機会となった。

実際の健康教室では、作成したプランニングシートに基づき、体力や認知機能の強化トレーニングなどを実施した。トレーニング後は、参加者からデータの収集を行うことで、適切な活動になっているか等の追加調査を実施した。

〈学習活動における生徒の姿と評価の結果〉

評価規準 [主体的に学習に取り組む態度] ②

行政や医療職、介護施設職員等と協働して町民の健康寿命の向上に取り組もうとしている。

【生徒Aの振り返り】～研究日報の一部～

町役場福祉課職員や介護福祉士、看護師の方から、トレーニングの効果を生むためには、継続的に実施できるようにすることが必要と伺いました。このことから、高齢者の方が、トレーニングを継続的に実施できるように、行政や医療の方と連携して、今後も高齢者の健康寿命を延ばすために貢献したいと思いました。

生徒Aは、傍線部において、自分たちで検討・作成したトレーニングについて、行政や医療職の方から助言を受けている。また、波線部において、助言の内容を踏まえて、今後も自分ができることを考え、健康寿命を延ばす取組に貢献しようとしていることが窺える。こうした姿から、評価規準に示す資質・能力が育成されていると考えることができる。

(3) [知識・技能] ① (具体的事例 ウ)

〈評価の場面〉

地域の高齢者に向けた健康教室を終了した後、自分たちの取組を研究日報等の各種記録をもとにプレゼンテーションの形で町内外の方に向けて研究発表し、外部評価を得ることで地域の高齢者福祉について、今後の課題や見通しを得ることができた。

その後、研究内容に関する総括を研究集録にまとめた。ここでは、研究集録に記述した振り返りを「知識・技能①」の主たる評価資料とした。

〈学習活動における生徒の姿と評価の結果〉

評価規準 [知識・技能] ①

町民の健康や福祉の向上のために様々な人や組織が関わり合っていること、高齢者も活躍できる社会の実現に向けては持続可能な取組を共に創造していくことが大切であることを理解している。

【生徒Bの振り返り】～研究集録の一部～

私は、地域の方々の健康や福祉の問題は、地域みんなの問題だと再認識しました。私たちを含めて、健康づくりや福祉に関わっている一部の人だけの問題ではありません。私の親や私自身もいずれ向き合わなければならない問題だからこそ、今回の取組のように、高齢者と町民や高校生を繋ぎ、互いに理解し合い地域ぐるみで高齢者を支えるということが続けていかなければいけないと考えるようになりました。

生徒Bは、傍線部において、地域の高齢者の健康や福祉は、様々な人や組織が相互にかかわりあって支えていることや、継続的に取り組んでいくことが大切であることについて理解し、認識を深めていることが窺える。こうした姿から、評価規準に示す資質・能力が育成されていると考えることができる。

5 観点別学習状況の評価の総括

「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」に、「総合的な探究の時間の記録については、この時間に行った学習活動及び各学校が自ら定めた評価の観点を記入した上で、それらの観点のうち、生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等、生徒にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述すること」とされている。評価結果の総括に当たっては、評価場面や単元における評価結果を総合し、「総合的な探究の時間の記録」に記述することが考えられる。

例えば、生徒Aについては、次のような記述が考えられる。

学習活動	観 点	評 価
町民の健康寿命を延ばすために	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	高齢者とともに取り組むトレーニングでは、各種の統計調査や先行研究などから、健康寿命を延ばす効果と安全を理解し、科学的な根拠をもったトレーニングの内容と方法を考えた。持続可能な自己の取組を明らかにして、今後も高齢者の健康寿命を延ばすために貢献しようとしている。

- ・記述に当たっては、単なる活動のみにとどまることがないように留意する必要がある。
- ・必要に応じて指導を行った学年（年度）を付記するなど、各学校の実態に応じて工夫して記載することが考えられる。
- ・評価規準にかかわらず教育的に望ましい成長や価値ある学習状況が現れた場合、生徒の姿を価値付け、そのよさを記述することも大切なことである。

3 特別活動

特別活動

議題
第2学年「よりよいホームルームをつくるために」（ホームルームの目標を決めよう）

内容のまとめり
ホームルーム活動（1）ホームルームや学校における生活づくりへの参画

《授業例》

1 評価の観点とその趣旨の設定

より良い生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
<p>多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。</p> <p>自己の生活の充実・向上や自己実現に必要な情報及び方法を理解している。</p> <p>よりよい生活を構築するための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。</p>	<p>所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法を話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりして実践している。</p>	<p>生活や社会、人間関係をよりよく構築するために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。</p> <p>主体的に人間としての在り方生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとしている。</p>

各学校においては、学習指導要領に示された特別活動の目標及び内容を踏まえ、自校の実態に即し、「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」の例示を参考に観点を作成する。その際、例えば、特別活動の特質や学校として重点化した内容を踏まえて、具体的な観点を設定することが考えられる。

2 内容のまとめりごとに育成をめざす資質・能力を設定

ホームルーム活動（1）で育成をめざす資質・能力

- ホームルームや学校の生活を向上・充実させるために諸問題を話し合っ解決することや他者を尊重し、協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けている。
- ホームルームや学校の生活を向上・充実させるために課題を見だし、解決について話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができる。
- 生活上の諸問題の解決や、協働し実践する活動を通して身に付けたことを生かし、ホームルームや学校における生活や人間関係をよりよく形成し、多様な他者と協働しながら日常生活の向上・充実を図ろうとしている。

学習指導要領の「各活動・学校行事の目標」及び学習指導要領解説で例示した「各活動・学校行事における育成をめざす資質・能力」を参考に、各学校において育成を目指す資質・能力を重点化して設定する。

3 内容のまとめりごとの評価規準

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
<p>ホームルームや学校の生活を向上・充実するために諸問題を話し合っ解決することや他者を尊重し、協働して取り組むことの大切さを理解している。</p> <p>合意形成の手順や活動の方法を身に付けている。</p>	<p>ホームルームや学校の生活を向上・充実するための課題を多角的に見いだしている。</p> <p>課題を解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践している。</p>	<p>ホームルームや学校における生活や人間関係をよりよく形成し、多様な他者と積極的に協働しながら日常生活の向上・充実を図ろうとしている。</p>

- ・ 特別活動の目標や各活動・学校行事の目標、各学校で設定した各活動・学校行事において育成を目指す資質・能力を踏まえて、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。
- ・ 「知識・技能」は、話し合いや実践活動における意義の理解や基本的な知識・技能の習得として捉え、評価規準を作成する。文末は「～を理解している」「～を身に付けている」とする。
- ・ 「思考・判断・表現」は、話し合いや実践活動における、習得した基本的な知識・技能を活用して課題を解決することと捉え、評価規準を作成する。文末を「～している」とする。
- ・ 「主体的に学習に取り組む態度」は、自己のよさや可能性を発揮しながら、主体的に取り組もうとする態度として捉え、評価規準を作成する。身に付けた「知識及び技能」や「思考力・判断力・表現力等」を生かして、よりよい生活を築こうとしたり、よりよく生きていこうとしたりする態度や観点を具体的に記述する。文末を「～しようとしている」とする。

4 指導と評価の計画（全4単位時間想定）

次	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	【始業式後】 「ホームルーム開き」		
2	【ホームルーム活動1】 「居心地のよいホームルームを築くためのホームルームの目標を決めよう」 ・ これまでのホームルームについての振り返りから課題を見つける。 ・ グループごとにホームルーム目標案を考える。 ・ グループ案を全体で共有し、ホームルームの目標を決める。	「知識・技能」、 「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」のそれぞれについて、「めざす生徒の姿」を定め、評価する。	ワークシート、 振り返りシート、 観察など。
3	【ホームルーム活動2】 『キャリアパスポート』を使って自分目標を考えよう」 ・ ホームルームの一員として、その目標を達成するためにできること、やるべきことを明らかにし、自分目標を設定する。 ・ ホームルーム役員を決める。	「知識・技能」、 「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」のそれぞれについて、「めざす生徒の姿」を定め、評価する。	ワークシート、 振り返りシート、 観察など。
4	【学校行事や終業式後】 『キャリアパスポート』を使ってホームルームの目標、自分目標の達成度を確認しよう」 ・ 学校行事などの節目に、ホームルームの目標とその達成に向けてのホームルーム全体としての取組、個人の取組を点検する。 ・ 必要であればホームルームの目標を修正する。	「知識・技能」、 「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」のそれぞれについて、「めざす生徒の姿」を定め、評価する。	ワークシート、 振り返りシート、 観察など。

- ・ ホームルームの目標は、設定して終わりにならないようにする必要がある。そのため、ホームルームの目標、個人の目標設定後に、それらの達成度を確認する時間を設定した。この時間のみならず、年間を通してそれぞれの目標やその設定の過程での話し合いが意識されているかという視点で生徒を見取っていくことになる。

5 評価方法

○ 振り返りシートを参考にして評価する工夫例

※ めざす生徒の姿を振り返りシートの記述から見取ることで評価する。

【この時間のめざす生徒の姿】

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
「めざす生徒の姿」 ・ よりよいホームルームを築くために、一人一人が自覚と責任を持ち、他者と協力して取り組むことが大切であることを理解している。 ・ よりよい学校生活を構築するための話し合いや活動の進め方、合意形成に向けた手順や活動の仕方を身に付けている。	「めざす生徒の姿」 ・ ホームルームをよりよくするための課題を見いだしている。互いの意見や考えを認め合いながら話し合い、合意形成を図り、協働して取り組んでいる。	「めざす生徒の姿」 ・ ホームルームの一員として、自らの役割や人間関係などを振り返ったり見通したりしながら議論に参加し、これからのホームルームや学校生活の向上・充実を図ろうとしている。

【振り返りシート例】

振り返りシート	あてはまる あてはまらない
1. 主体的に話し合いに取り組むことができた。	4・3・2・1
2. ホームルームの一員であるという意識で取り組むことができた。	4・3・2・1
3. これまでを振り返って、これからのホームルームを見通すことができた。	4・3・2・1
4. 自分と異なる意見や考えも認めながら、自分の意見を伝えることができた。	4・3・2・1
5. 作り上げたホームルームの目標に満足している。	4・3・2・1
⇒どんなどころに満足していますか。または満足していませんか。(自由記述)	
6. ホームルームの目標を達成するために、自分にできること、すべきことは何だろう。具体的に書いておこう。(自由記述)	

【生徒の記述】

生徒	【振り返りシート例】 5. 6. の記述例	見取ることができる 観点
A	5. 今までできなかったことを考えて、直した方がよいところとかを意見交換してみんなで決めたから満足している。(①) 6. ホームルームで支え合える人になれるように目標を立ててがんばりたい。(②)	→【思考・判断・表現】 →【主体的に学習に取り組む態度】
B	5. 満足。 6. ホームルームをよりよいものにするために、まずは学習面でみんなに貢献したい。(①)	→【主体的に学習に取り組む態度】
C	5. 目標はホームルームのレベルを上げてくれるし、目標の達成をみんなで意識して取り組むことで団結力が生まれるから作れてよかった。(①)	→【知識・技能】

<生徒Aの評価例>

① これまでを振り返り、課題となることを見出した上で自分の意見を持ち、他者との意見交換をした様子が分かることから【思考・判断・表現】の観点で評価できる。

② ホームルームの一員として、よりよいホームルームを構築するために自分の行動を変容させようとしていることから【主体的に学習に取り組む態度】の観点で評価できる。

<生徒Bの評価>

① ホームルームの一員として、よりよいホームルームを構築するために自分の行動を変容させようとしていることから【主体的に学習に取り組む態度】の観点で評価できる。

<生徒Cの評価>

① 目標が、よりよいホームルームを構築するためのものであり、一人ひとりがその目標の達成のために自覚と責任をもって取り組むことが大切であると考えていることから【知識・技能】の観点で評価できる。

自由記述の内容について、目指す生徒の姿にあてはまるかどうかを見取りたい。そのためには、何を振り返りシートから見取るのかを考えた上で、質問項目を設定する必要がある。ただ感想を書かせるのではなく、生徒が具体的に自らの考えを書き出すことができるように工夫したい。積極的発言をするリーダー的な存在の生徒ばかりを評価しがちであるが、観察の際に見取ることができなかった生徒についてもワークシートの記述からきちんと評価することが大切である。

6 総括的評価

○ 生徒による「自己評価」と、生徒が互いの良さを認め合う「相互評価」を参考にした工夫例

生徒	学期	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		担任による総括的評価 (※1)
		自己評価 相互評価	教員	自己評価 相互評価	教員	自己評価 相互評価	教員	
D	1学期	○						○
	2学期	○○	○	○		○		
	年間			○○	○	○○	○	
E	1学期							○ (※2)
	2学期					○	○	
	年間	○		○		○	○	

※1 担任による総括的評価については、教員間での統一した考え方が必要不可欠である。共通理解の上、年間の評価において教員からの評価に○が2個以上なら、総括的評価を○と判断することも考えられる。

※2 ホームルーム活動の全体計画等において、学年や学期ごとに重点化した内容項目がある場合（例えば、1年生はまず「主体的に学習に取り組む態度の獲得をめざそう」など）、教員からの評価の○が一つの場合でも総括的評価を○とする場合も考えられる。

生徒の自己評価や相互評価は学習活動であり、それをそのまま学習評価とすることは適切ではないが、学習評価の参考資料として適切に活用することにより、生徒の学習意欲の向上につなげることができる。

何ができるようになったかという視点での生徒のよさの見取りも含めて評価できるように、様々な情報を活用しながら、積極的に生徒の変容を見取れるように努めることが大切である。

高等学校特別活動の「内容のまとめり」

高等学校特別活動における「内容のまとめり」は、以下のようになっている。

- | | |
|----------|--|
| ホームルーム活動 | (1) ホームルームや学校における生活づくりへの参画
(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現 |
|----------|--|

生徒会活動

- | | |
|------|--|
| 学校行事 | (1) 儀式的行事
(2) 文化的行事
(3) 健康安全・体育的行事
(4) 旅行・集団宿泊的行事
(5) 勤労生産・奉仕的行事 |
|------|--|

学習評価に関するQ & A

Q1 評定への総括にあたり、3観点の割合を各教科等により変えてもよいか。

各教科・科目等の特質や各学校の実態を踏まえ、適切に割合を設定し、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」が偏りなく育成されるように努めてください。

Q2 観点別学習状況の評価を総括して評定を決定する際の基準は、県で定めないのでか。

評定への総括方法については、各学校において定めることとされています。評価への総括方法については、評価の妥当性・信頼性を確保する観点からも、生徒や保護者等に説明することができるよう、各学校の実態や目標に応じて、各学校で適切に定める必要があります。

Q3 「主体的に学習に取り組む態度」の評価に出席率を含めてもよいか。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、各教科等の「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習を調整しながら、粘り強く学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を、ノートやレポート等による記述、授業中の発言、教員による行動観察や生徒による自己評価や相互評価等の状況等により評価するものです。

そのため、出席率によりこの観点の評価を行うことは適切ではありません。

Q4 ペーパーテストの中で「知識・技能」と「思考・判断・表現」の占める割合は各校で決めてもよいか。

ペーパーテストの中で、各観点の実現状況を確認する問題の割合は、各学校で適切に定めます。

Q5 「主体的に学習に取り組む態度」において求められる「学習の調整」とは何か。

ここでの「学習の調整」とは、「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤することなどを示しています。そのように自らの学習を調整しながら、粘り強く学ぼうとしている意思的な側面をノートやレポート等における記述や、授業中の発言内容等から見取り、適切に評価していきます。

Q6 「主体的に学習に取り組む態度」における「個人内評価」とはどのようなものか。

「個人内評価」とは、観点別学習状況の評価にはなじまない「感性、思いやりなど」について、生徒一人ひとりの良い点や可能性、進歩の状況について評価することです。「主体的に学習に取り組む態度」における評価には含めませんが、良い点等を口頭で伝えたり、コメントとして残したりして、児童生徒が前向きな気持ちで学習に取り組めるよう配慮していきます。

Q7 ペーパーテストにおいて、「思考・判断・表現」に関する「出題の仕方の工夫」とは、生徒の実態に応じて問題の難易度に差をつけるということでしょうか。

ここでの「出題の仕方の工夫」とは、「思考・判断・表現」の単元の評価規準に照らして、適切にその実現状況を図ることができるような出題の仕方を工夫することを意味しています。評価規準で示した資質・能力について、適切に評価できる問題となるように工夫することが必要です。

生徒の実態に応じて問題の難易度に差を付けるということも工夫の一つですが、それだけではないことに留意することが必要です。

Q8 実習を伴う科目について、適時行っている実技試験等の評価を、観点別評価に置き換えてもよいか。

実技試験等の内容と、各観点における評価規準の内容が適切に対応しており、また、実技試験等が、資質・能力の実現状況を見取る場面として適切であれば可能です。評価規準を適切に定めることが大切です。

参考資料

本手引きの作成に当たっては、次の資料等を参考にしました。

<文部科学省等発出文書（①～③）>

- ① 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」中央教育審議会（平成28年12月）



- ② 「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会（平成31年1月）



- ③ 「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」文部科学省初等中等教育局長（平成31年3年）



<文部科学省等作成資料（④～⑥）>

- ④ 高等学校学習指導要領（平成30年告示）（平成30年3月）



- ⑤ 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説（平成30年7月）



- ⑥ 「学習評価の在り方ハンドブック」高等学校編（令和元年6月）



- ⑦ 平成 29・30 年改訂の学習指導要領下における学習評価に関する Q&A
(令和元年 11 月)



- ⑧ 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校編
(令和 3 年 8 月)



<本県作成資料 (⑨～⑩) >

- ⑨ 高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示) 実施上の手引き (令和元年 10 月)



- ⑩ 高等学校における学習評価の手引き～「指導と評価の一体化」の推進に向けて～ 理論編
(令和 3 年 5 月)

